

京都女子大学 地域連携研究センター

# Annual Report 2024



# 目次

## ■地域連携研究センター

2024 年度の活動を振り返って 地域連携研究センター長 中山 玲子 .....	01
---	----

## ■女性地域リーダー養成プログラム

2024 年度開講科目一覧 .....	02
---------------------	----

## ■連携プロジェクト補助事業

2024 年度連携プロジェクト補助事業一覧 .....	12
京都刑務所との木育による造形プロジェクト 発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真 .....	13
児童養護施設における支援活動— NPO 団体と連携して — 発達教育学部 教育学科 仲井 勝巳 .....	15
電車／駅構内での性暴力防止を目指して—学生目線のポスター作成— 法学部 法学科 市川 ひろみ 家政学部 生活造形学科 江口 淑子 ジェンダー教育研究所 戸田 香 .....	17
人生すごろく「西野山物語～ダンチノキセキ～」作成～西野山団地居場所活性化プロジェクト～ 家政学部 生活造形学科 是永 美樹 .....	19
音楽アウトリーチを通じた生涯学習活動 発達教育学部 教育学科 音楽教育学専攻 助教 坂本 光太 .....	21
未来のまちづくりワークショップ：大阪いばらき気候市民会議 2024 実施について 現代社会学部現代社会学科 諏訪 亜紀 .....	23
伝統工芸と図書館 SDGs ～京焼編～ 図書館司書課程 桂 まに子 .....	25
駅ナカアートプロジェクト—京都をアートで元気に— 家政学部 生活造形学科 准教授 江口 淑子 .....	27

## ■その他の連携活動

セミナー、シンポジウム、地域連携活動などを多様に展開 .....	29
----------------------------------	----

## ■生涯学習

京都女子大学が提供する学びの場（公開講座 / 生涯学習講座 / リカレント教育課程） .....	31
2024 年度 公開講座一覧 .....	31
2024 年度 生涯学習講座一覧 .....	34
「いつまでもいくつになっても よい姿勢」 地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子 .....	37
2024 年度 リカレント教育課程概要 .....	39

2024 年度 主な活動実績 .....	45
----------------------	----

協定締結先と連携協定内容一覧 .....	46
----------------------	----

京都女子大学地域・産学官連携ポリシー .....	48
--------------------------	----

※教員の所属・職名は 2024 年度当時

## 2024 年度の活動を振り返って

地域連携研究センター長 中山 玲子

2024 年度のアニュアルレポートをお届けできますこと、連携協定先の諸機関並びに地域の皆さまのご理解とご支援・ご協力のおかげと、心より感謝申し上げます。

2024 年度を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症も収束し、コロナ禍前の活動ができるようになってきました。

まず、2024 年度の連携・協定先は、株式会社読売新聞大阪本社、日立造船株式会社、株式会社トーフミート、医療法人社団慶友会 吉田病院、ANA ビジネスソリューション株式会社、独立行政法人都市再生機構であり、多業種の企業や法人等と、包括連携協定を締結することができました。

連携活動科目「女性地域リーダー養成プログラム」は、80 名未満の講義は対面型で、それ以上の受講生数の講義はオンデマンド型で開講しました。寄附講座（オンデマンド）の講師の皆さまには、録画による講義提供をしていただき、直接学生とのコミュニケーションが取れず、申し訳なく思う次第です。しかしながら、多くの学生に受講してもらい、女性地域リーダー養成副専攻プログラムの単位を修了した者が少しずつ増加していることは、ご協力いただいている皆さまのおかげと心より御礼申し上げます。地域連携活動も祇園新橋地区の地域行事や京都刑務所の矯正展等にも学生が参加させていただきました。

大学全学科、附属施設提供の生涯学習講座や公開講座も、コロナ禍ではオンライン開催が多かったですが、ほぼ対面での開催に戻って来ており、多くの方に参加いただきました。

連携プロジェクト補助事業は、8 件（昨年度よりの継続 4 件、新規 4 件）の連携活動がなされました。京都刑務所との木育による造形プロジェクト、駅ナカアートプロジェクト 2024、音楽アウトリーチを通じた生涯学習活動、痴漢撲滅ポスター作成、児童養護施設における支援活動、西野山団地居場所づくり支援、茨木市気候市民会議、伝統工芸と図書館 SDGs ～京焼編～など、教員と学生が地域の皆さまと連携を取りながら多様な連携活動を展開し、素晴らしい成果を報告してくれました。ご協力いただきました連携先の関係各位、地域の皆さまに心より御礼申し上げます。

さて、地域連携研究センターのもう一つの活動であるリカレント教育課程は、2018 年度から開講してきた平日通学コースが 7 年目となり、コース名も「ブラッシュアップコース」と改称し、確実に実績を上げています。また、「実践・女性リーダー養成コース」は、令和 4 年度文部科学省補助事業「管理職を目指す女性のためのマネジメント力アップ・プログラム」を基に、履修生や企業から高評価・ご要望をいただき、自走に至ったプログ

ラムですが、実践的な演習やロールモデルセミナーがリーダーシップ力育成や意識改革に有効に働き、リーダーシップ力に自信がついた者が 90%（受講前 5%）、マネジメント力に自信がある者が 90%（受講前 5%）となり、満足度も 100%と高い評価をいただきました。成果報告会にも多くの企業の方にご参加いただき、当プログラムへの関心の高さが窺えました。

3 つ目のコースとして、令和 6 年度文部科学省「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」も 5 年連続で採択され、「ウィミンズカレッジ（KNFSM）連携マネジメント基礎コース」を開講しました。KNFSM とは、本学が中心となり、女性リーダー育成のリカレント教育課程に実績がある日本女子大学、福岡女子大学及び椙山女学園大学、宮城女学院大学の 5 女子大学が連携して、多様な指導的立場の女性を総合的に支援するマネジメント力養成の視点から、各大学の特徴的な講座を提供して構築したプログラムです。市川房枝記念会、日本女性教育会館からもセミナーをご提供いただき、また、受講生同士のネットワーク化とキャリア開発への意欲を高めることにも努めました。オンライン開講のため、関東地方から鹿児島県まで、広域の方々に受講していただくことができました。受講後、リーダーシップ力に自信がついた者やマネジメント力に自信がある者が増加し、オンライン授業でしたが、受講生同士のコミュニケーションやネットワーク形成にも一定の成果が見られました。また、12 月 7 日には当センター客員教授の池上彰氏を招いて京都女子大学リカレント教育課程シンポジウム「リカレントで拓く未来」を対面で開催し、上述の受講生にはオンデマンドで視聴していただきました。

さらに、京都府リカレント教育推進機構（生涯現役クリエイティブセンター）提供コースとして、DX 人材育成コース（共学）を開設し、好評を博しております。

以上、2018 年度に開始したリカレント教育事業も今年度で丸 7 年が経過し、修了生も 351 名（京都府提供コース除く）にのぼります。これも、連携協力機関との緊密な連携活動があったからこそ、と心より御礼申し上げます。

今後も、京都女子大学の教育理念である「ジェンダー平等の実現に貢献できる人材育成」および「生涯学び続けることのできる大学」を目指して、産官学と連携して更なる活動を展開していく所存です。皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

女性地域リーダー養成プログラム  
2024 年度開講科目一覧

○女性リーダー養成プログラムとは

2017 年から開講した女性リーダー養成プログラムは、各学科、専攻で習得した専門性に加えて、地域課題の発見能力、問題解決能力、実践力を備えた行動できる女性、地域リーダーとなり得る女性の養成を目的としている。2019 年以降に入学の学生には、共通領域副専攻プログラムとなっている。

科目名	担当者	開講時間	概要
連携活動入門	竹安 栄子	後期／火 8	連携活動に従事するにあたって、知っておくべき基礎的な事項や身につけておくべき倫理事項、さらに多様な連携活動の実態について講義する。 なぜ今、連携活動が社会的に求められているのか、大学生がさまざまな連携活動に従事することの意義が何なのかを、具体的な事例を交えながら講義する。
地域連携講座 A1	久保 雅子	後期／木 7	半期 15 回のうち最初の 5 回は基礎知識の修得 6 回目～ 14 回目は社会の多様な業種業態、職種で活躍している女性リーダーにキャリアを語っていただき、これからの進路就職ならびにキャリアを考えるきっかけにする。最初のガイダンスと最後の全体総括を担当者が行う。
地域連携講座 A2	大妻女子大学	後期／ 集中講義	この授業では益々多様化する社会の価値観に対し、世界と日本そして地域社会とその文化特質に関し特にサービス＆ホスピタリティの視点から、その中心的産業の第一線で活躍するゲスト講師の講義と各企業へのフィールドワークを通して、自らの価値観醸成を目的とする。
地域連携講座 A3	大妻女子大学	後期／ 集中講義	5 日間で 5 名の講師が、それぞれの分野についての基本や歴史背景の講義、実演、実習を行う。基本的な調理実習においても、プロとの違いを体験してもらい、プロフェッショナルとは何なのかを理解することを目的とする。
地域連携講座 B1	岡崎 昌枝	前期／月 7	本講義は、自身のライフイベントとそれに伴う様々なリスクを理解し、そのリスクへの対処方法には地域社会にある様々な社会資源（フォーマル・インフォーマル）を活用し、自身も柔軟なネットワークをもつことが必要であることを学ぶ。
地域連携講座 B2	中山 玲子	前期／月 2	行政や企業、各種組織の実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた京都の社会や産業の実態を講じてもらうオムニバス形式の授業です。京都市の姿と京都市が直面する課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が地域貢献活動に主体的に取り組むよう学生の行動を促進することを目的としている。
地域連携講座 B3	岡崎 昌枝	前期／水 7	本講義は、京都府京都市で災害、子育て、観光、産業の各分野の実務を担っている専門家より講義を受講し、京都府京都市の課題についてレポートする。その後、地方都市・地域社会を知ることの意義についての講義を行い、地域貢献活動について企業、NPO、大学、福祉の視点から再度各分野の実務を担っている専門家に講義により自身が生活する地域社会を調べ、取り組んでみたい地域貢献活動をレポートする。
産学連携講座 A1	一力 知一	後期／金 5	普段の生活暮らしと関連のある具体的な事例を豊富に取り上げ、企業の見方、社会の見方を学ぶ。ビジネス界で数多くの講演やプレゼンを行ってきた教員によるプレゼンテーション実践実習により、本当に使えるプレゼンスキルを身に着ける。 プレゼン実習は、発表者、質問者の役割を決めて行う。 今年でこの講義は 3 年目ですが、毎年、全員がプレゼンを作れるようになっていきます！この講義を受け終わると、社会の見方が大きく変わり、自分の将来を明るく考えられるようになります！
産学連携講座 A2	野村證券株式会社 (寄附講座)	後期／火 7	資本市場に求められる役割とは何か。激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク＆リターンのか考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。
産学連携講座 A2	読売新聞社 (寄附講座)	後期／水 3	読売新聞による産学連携講座「ダイバーシティ」をテーマに、多様化、複雑化する現代社会の問題について、その背景や課題、今後の展望などを読売新聞の専門記者らが取材体験や独自の視点を交えて解説する。各種業界の企業や団体も講師陣に加わり、各業界の現状や将来像などについて語る。
産学連携講座 B1	株式会社朝日新聞社 (寄附講座)	前期／火 5	新聞記者（講師）が様々な社会問題やコミュニケーションをテーマに講義をする。学生はそれぞれの意見を論作文として提出。講師が添削し講評する。また、記事を使って社会問題を考える。なお、ニュースの動向などにより、授業計画を変更することがある。
産学連携講座 B2	2024 年度不開講		
産学連携講座 B3	2024 年度不開講		
連携課題研究	桂 まに子	通年／ 集中講義	本授業では、受講生が地域社会の担い手となることを想定し、地域で様々な仕事や活動を行う上で必要となる社会との関わり方や、地域の情報を収集・整理・編集して正確に発信する技術力を身につけることを目指す。具体的には、地域や企業、公共施設等との連携の課題を整理し、プロジェクト
連携課題研究	宮原 佑貴子	通年／ 集中講義	本授業では、京都の地において長年育まれてきた伝統的産業である着物の染色技術の奥深さを知るとともに、現代の課題を発見し、解決に導く手法を考察する。 前期では、京都の伝統的産業を活用した取り組み事例をリサーチし実態を把握する。それぞれのリサーチについてのディスカッションを通して、現代における伝統的染色産業の役割と今後の可能性を探る。 後期では、テーマとなる染色の学習をおこない知識を深めるとともに、本学に技術者を招いて染色実習を体験し、受講生らは自ら体得した染色の魅力や課題点について細やかに取材する。
地域社会学	中道 仁美	前期／火 4	地域社会とは何かを理解し、現代社会における地域の現状と問題について考える。地域社会の歴史と現状を理解し、主要な地域社会学の理論とその展開過程、現代社会と地域の関係について学ぶ。現代社会をより深く理解するため、地域社会学という新たな分析視角を身につける。
民俗文化論	竹安 栄子	後期／月 8	私たちが日常生活の中で当たり前だと考えている習慣や習俗は元来、どのような意味を持っていたのだろうか？私たちにとっての「常識」は、他の文化から見て「常識」と考えられるのだろうか？「伝統」は一体いつ始まり、どのようにして「伝統」になっていったのだろうか？このような素朴な疑問から出発して、私たちの社会に蓄積されてきた民衆の文化を体系的に講じ、「伝統」とは「保守」ではなく「革新」であることを明らかにしていく。



# 連携活動入門

## 連携活動事始め～連携活動にチャレンジ～

【担当教員】竹安 栄子

【授業形態】オンデマンド型授業

### 【授業の到達目標】

1. 連携活動の社会的意義について理解する。
2. 連携活動の基礎知識を身につける。
3. 連携活動への従事が自分の成長を促すものであることを体験する。

### 【学位授与の方針との関連】

大学や企業、さらには市民として担うべき社会的責任を、具体的・実践的に学ぶことによって、「学位授与の方針」の「高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚」を養うことを目指している。

### 【授業計画】

受講期間中、1度は学外での活動に参加する。なお活動先は、こちらから紹介し、初めての学生も安心して受講できるよう配慮している。2023年度の学外活動先は以下の通り。毎年受講生からは、「参加してよかった」との感想が寄せられている。

1. 「七條大橋のお掃除と交流会」
2. 五条坂茶わん坂ネットワーク主催「わん碗 ONE 展開催準備への協力」
3. 祇園新橋景観づくり協議会主催「祇園新橋の落ち葉掃き」
4. 祇園新橋景観づくり協議会主催「お火焚祭 準備、祭事・後片付け」他

第1回 オリエンテーション

第2回 I. イントロダクション

II. 地域社会を知ろう

1. 連携活動とは？なぜ、今求められるのか
2. 「地域社会」の構造と地域課題：京都市東山区を事例に

第3回 II. 地域社会を知ろう

3. 東山区ウォーキングのためのオリエンテーション

- ①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く
- ②祇園新橋地区を歩く
- ③連携活動に求められる倫理事項

第4回 II. 地域社会を知ろう

4. 東山区ウォーキング：多様な顔をもつ東山区

- ①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く

- ②祇園新橋地区を歩く フィールドワーク

第5回 第4回に引き続き東山区ウォーキング

第6回 II. 地域社会を知ろう

5. 京都市を学ぶ

ゲストスピーカー：京都市役所総合政策局

第7回 II. 地域社会を知ろう

6. 京都市の大学政策

ゲストスピーカー：大学コンソーシアム京都  
須蒲浩二氏

第8回 III. 人口減少社会の地域課題

7. 人口減少と女性の社会参画

- ①日本の近未来の姿
- ②女性の社会参画 LMS への資料提示と動画 授業内容のコメント

第9回 IV. 市民によるまちづくり活動

8. まちづくりの担い手としての市民

- ①京都のまちづくり  
ゲストスピーカー：京都市景観・まちづくりセンター 池谷憲彦氏
- ②町内会を中心とした活動  
ゲストスピーカー：NPO 京都景観フォーラム 森川宏剛氏

第10回 V. 京都女子大学の連携活動

9. 京都女子大学地域連携研究センターの社会連携活動  
LMS への資料提示と動画 授業内容のコメント

第11回 VI. 企業の社会的責任

10. CSR と SDGs

- ①なぜ CSR なのか
- ②CSR の歴史
- ③SDGs と企業 LMS への資料提示と動画

第12回 VI. 企業の社会的責任

11. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進  
ゲストスピーカー：①NTT 西日本人事部ダイバーシティ推進室 室長 横田さくら氏「NTT 西日本における SDGs の取り組み」

第13回 VI. 企業の社会的責任

12. 企業の連携活動：金融機関の社会的貢献  
ゲストスピーカー：②三井住友銀行京都エリア支店長

第14回 VII. 連携活動実践①（連携実践活動の代休なし）

第15回 実践活動体験発表会（全員のプレゼンテーションをネットワーク上で視聴）

## 地域連携講座 A1

日本型雇用が残した負の資産からジェンダー平等を阻む要因を理解し、各業界で活躍する先輩たちの話を聴くことで、主体的に自分のキャリアを考え、行動し学び続ける大切さを習得する

【担当教員】久保 雅子

【授業形態】オンデマンド型授業

### 【授業の到達目標】

1. 社会やビジネスを取り巻く環境が大きく変わっていく中で、なぜ日本は先進国の中で労働生産性が低く、ジェンダーギャップが大きいのか、その原因を把握する
2. 男女の賃金格差を考える、格差を生む働き方や慣習、その背景にある社会規範について学ぶ
3. 様々な業種・職種で活躍する女性リーダーたちのキャリアやリーダーシップについて考える
4. 自分自身のキャリアを主体的に考え、デザインし、行動することの大切さを学ぶ

### 【学位授与の方針との関連】

「自分のキャリア」をこれからデザインするのは、あなた自身が決めて、作る事ができる。

この講義ではビジネスや社会と個人の関係性、家庭のあり方も含めた働き方の問題についても触れていきます。学生生活の中で「自分」を大切にし、経験を積み、主体的に自分のキャリアを考え、行動し学び続ける大切さを習得する。将来、ビジネスや社会、家庭の中で、重要な意思決定に参画できるイメージをもつ。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと本講座受講後のアウトプット「自分のキャリア設計図作成」を説明
- 第2回 「働く女性」を取り巻く現状を知る
- 第3回 働き方の多様化を踏まえた社会保障
- 第4回 女性の就労課題（キャリア中断や昇進昇格格差・賃金格差・家庭内分業など）について
- 第5回 企業における女性活躍推進の課題（社会で起こっている様々な危機と京女生への期待）
- 第6回 地方公務員の仕事
- 第7回 アミューズメント業界の仕事／開発企業
- 第8回 人財開発（メーカー）の仕事
- 第9回 営業の仕事
- 第10回 IT企業での仕事

- 第11回 大学職員の仕事
- 第12回 国連職員の仕事
- 第13回 ホテル／支配人
- 第14回 起業
- 第15回 まとめ 自分のキャリア設計図作成

## 地域連携講座 A2

### 地域文化理解

【担当教員】大妻女子大学

【授業形態】対面授業

### 【授業の到達目標】

この授業では、対象となる産業界（航空業界・ホテル業界・放送業界）の理解と合わせ、似て非なるサービスとホスピタリティの相違、そして世界から評価される日本の“おもてなし”の本質を理解し自ら実践できる基礎作りを目的とする。

### 【学位授与の方針との関連】

社会性・自立性

### 【授業計画】

- 第1回 開講挨拶～オリエンテーション「サービスとホスピタリティとは…」
- 第2回 【ホテル業界—1】観光立国への課題「世界＆日本のホテルについて」
- 第3回 グループディスカッション
- 第4回 DVD鑑賞「コンシェルジュとは…」
- 第5回 【ホテル業界—2】東京ステーションホテルの歴史と役割
- 第6回 【ホテル業界—3】ホテルの業務と総支配人の使命〔第5・6回後、午後ホテル視察〕
- 第7回 【航空業界—1】航空産業論
- 第8回 【航空業界—2】JAL スカイが目指すサービス—1
- 第9回 【航空業界—3】JAL スカイが目指すサービス—2
- 第10回 【航空業界—4】航空業務（羽田空港）について（オペレーションセンター・他）
- 第11回 【空港業務—5】安全管理について（安全啓発センター・整備工場）〔第10・11回は現地フィールドワーク〕
- 第12回 【放送業界—1】インバウンド増加の光と影
- 第13回 【放送業界—2】世界の中の日本—1
- 第14回 【放送業界—3】世界の中の日本—2
- 第15回 授業総括～開講挨拶「めざすべき新たな社会とは…」

## 地域連携講座 A3

### 地域文化理解（食版）

【担当教員】大妻女子大学

【授業形態】対面授業

#### 【授業の到達目標】

この授業では、世界や日本、地域社会の多様な食と食文化に関し、国内外の第一線で活躍する食のプロフェッショナルによる講義と調理実習、フィールドスタディを通じ、食についての基本的理解と価値観の醸成を目的とします。

#### 【学位授与の方針との関連】

知識・理解

#### 【授業計画】

- 第1回 講義「フランス料理の真髄」 三國清三
- 第2回 調理実習及び試食「きのこのスープ、カプチーノ仕立て」 三國清三
- 第3回 講義と実演「パティシエの基本技術」 浅井拓也
- 第4回 調理実習及び試食「カスタードクリームたっぷりのシュークリーム」 浅井拓也
- 第5回 講義「日本料理の歴史について」 平塚未来
- 第6回 講義と実演「日本人のうま味を極める」、「出汁の違いや美味しいご飯の炊き方」 平塚未来
- 第7回 調理実習及び試食「美味しいご飯と出汁の実践」 平塚未来
- 第8回 講義と実演「あなたの知らないビーガン、ベジタリアンの世界」、「ビーガン料理実演」 本道佳子
- 第9回 調理実習と試食「和ビーガン料理2品」 本道佳子
- 第10回 講義「発想の転換から生まれる未来の食」 本道佳子
- 第11回 講義「食を通じた街づくりについて」 井上友美
- 第12回 丸の内エリア視察「食や地方創世をテーマにした施設の視察」 井上友美
- 第13回 調理実習及び試食「スポーツと栄養素の食べ合わせ学ぶ調理実習」 井上祐子
- 第14回 講義「調理実習で学んだこと」 井上祐子
- 第15回 講義「総括及び料理人の社会貢献」 三國清三

## 地域連携講座 B1

### ライフイベントとリスクマネジメント

【担当教員】岡崎 昌枝

【授業形態】オンデマンド型授業

#### 【授業の到達目標】

社会人として生活するなかで、就職・結婚・出産・育児など様々なイベントがある。生涯にわたって起こるそれらのイベントには様々なリスクも伴っていることを予め理解しておくことで、リスクを最小限にとどめることができる。リスクマネジメントには様々な機関や団体、制度などのフォーマルな資源と家族・仲間・友人などインフォーマルな資源を持ち、活用することが重要であることを理解し、ライフイベントで起こりうるリスクマネジメントを乗り越えるネットワークの大切さを学ぶ。

#### 【学位授与の方針との関連】

本講義を通じて履修生はライフイベントとその周辺のリスクを知り、そのリスクへの対処方法としての予備知識を得ることができる。さまざまな社会資源とネットワークについて予め理解しておくことで正しい判断と適応力を身につける。

#### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、ライフイベントとリスクマネジメント
- 第2回 社会資源とネットワーク
- 第3回 大人の発達障害（発達支援センター）
- 第4回 メンタルヘルス（精神保健福祉士）
- 第5回 キャリアについて（キャリアコンサルタント）
- 第6回 働くことについて（まとめとふりかえり）
- 第7回 性教育、LGBT（京都 SARA）
- 第8回 妊娠・出産（保健師・助産師）
- 第9回 出産と職場復帰（保育士）
- 第10回 離婚、ハラスメント、労働災害（弁護士）
- 第11回 女性特有の疾病と予防【医師】
- 第12回 性に関して（まとめとふりかえり）
- 第13回 老後への備え
- 第14回 女性と災害（男女参画推進センター）
- 第15回 社会資源活用のすすめ

## 地域連携講座 B2

### 京都の社会と連携活動

【担当教員】中山 玲子

【授業形態】対面授業

#### 【授業の到達目標】

1. 地域社会としての京都の実態を理解する。
2. 京都を事例として、現代の日本の地域社会が抱える課題を理解する。
3. 地域社会の多角的側面を理解する。
4. 行政をはじめとした各種分野の実態を理解する。
5. 地域社会が市民の力で成り立っていることを理解する。
6. 学生が地域社会の構成員として行動することが社会から期待されていることを理解する。

#### 【学位授与の方針との関連】

京都の社会を多角的に理解することによって、社会についての広い教養を培うことが出来る。また社会を構成する多様な組織・機関の役割を学ぶことによって、組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働する重要性を理解する。

#### 【授業計画】

- 第1回 イン트로ダクション：本講義の概要や目的など受講に当たって理解しておくべき事項について。
- 第2回 京都女子大学が取り組んでいる地域連携や貢献活動について。
- 第3回 京都市役所：京都市の人口・世帯、産業など京都市の概要と京都市役所の役割について。
- 第4回 東山区役所：市次期東山区基本計画「住んでこそ！東山プロジェクト」人口減少が著しい東山区について、現状と課題、今後の取組について。
- 第5回 京都刑務所：「負の回転ドア」という表現に象徴されているように、日本の犯罪者の半数が再犯者で占められている。なぜ犯罪を繰り返すのか、それを解消するには市民として何を必要があるのか、刑務所で犯罪者の厚生に尽力する刑務官による講義。
- 第6回 京都保護観察所：刑務所に入るほどではない軽微な犯罪を犯した青少年や刑期を終えて刑務所を出所した人たちの生活と更生を支える制度を構成活動の最前線で日々努力する人たちの声を通して学ぶ。

第7回 東山税務署：「社会人になるにあたって知っておくべき税金の知識」「健全な納税者である社会人になるために」「豊かで安心して暮らせる未来のために」今、知っておくべき税金の知識（公平な租税負担と税金の使途など）などについて講義。

第8回 ハイアットリージェンシー京都：世界に展開するグローバルホテルであるハイアットリージェンシー京都の総支配人による講義。グローバル企業としてのハイアットの理念から「京都」のハイアットとしての特徴をどのように経営に生かしているのか、さらにグローバル企業から見た京都の観光について。

第9回 招徳酒造：京都の伝統的地場産業の一つである伏見の酒造業の歴史から現状を学ぶと共に、現在酒造メーカーが直面する課題について話を聞く。招徳酒造は伏見で唯一の女性杜氏の蔵。

第10回 NPO 京都景観フォーラム：世界から称賛される京都の景観がどのようにして維持されているのか、だれの手によって保全されているのか、現場の経験に基づいて解説。

第11回 京都銀行：地方銀行と都市銀行の違いから始まって、地方銀行が地域経済に果たす役割について実務家による講義。

第12回 京都市中央卸売市場 / 京都市市場協会：「京の台所」を支える中央卸売市場の機能と役割を学ぶ。

第13回 朝日新聞社：全国紙と地方紙の違い、新聞が地域社会に果たす役割など、記者の目から見た地域社会について現職の記者による講義。

第14回 東山区社会福祉協議会：高齢化率33%という東山区の高齢者の生活実態を、社会福祉の最前線の実務家から学ぶ。

第15回 京都ジョブパーク：本学学生の就職状況あるいは就活の現状を通して京都の産業を考える。総括

## 地域連携講座 B3

### ライフイベントとリスクマネジメント

【担当教員】岡崎 昌枝

【授業形態】オンデマンド型授業

#### 【授業の到達目標】

京都府京都市を中心とした地域社会の実態を学び現状と課題を知る。その上で自身が生活してきた地域社会を見つ



めなおし、地域貢献活動として何ができるかを考える。

### 【学位授与の方針との関連】

本講義を通じて履修生は、就職希望先の企業の社会貢献について考えることができ、ライフイベントによって転職や転勤などにより暮らす地域が変わっても地域社会にある資源を利用して生活を豊かにすることができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：地域社会の実態（京都府 京都市）前半課題（レポート）について説明
- 第2回 産業（農産業）〈京都府農林水産部経営支援・担い手育成課〉
- 第3回 子育て〈京都市はぐくみ推進室〉
- 第4回 観光〈京都市観光協会〉
- 第5回 災害の実態と防災（京都市）〈京都市危機管理課〉
- 第6回 産業（企業）〈オムロン〉
- 第7回 産業（伝統産業）〈西陣織〉
- 第8回 都市部の課題と地方都市の課題 中間課題について説明
- 第9回 地域社会の実態を知る意義 最終課題について説明
- 第10回 地方都市における観光
- 第11回 地域貢献活動（企業）〈京都中小企業家同友会〉
- 第12回 地域貢献活動（NPO）〈京都 NPO センター〉
- 第13回 地域貢献活動（大学）〈京都女子大学連携推進課〉
- 第14回 地域貢献活動（福祉）〈京都市社会福祉協議会〉
- 第15回 地域問題と地域貢献

## 産学連携講座 A1

大学で学んだ多くのことを社会で活かすためのスキルを身に付け、社会に貢献できる人材へのステップアップを！

【担当教員】一力 知一

【授業形態】対面授業

### 【授業の到達目標】

- ・社会・ビジネスで今求められている必要なスキルである論理的思考、仮説思考についての知識を獲得する
- ・論理的思考、仮説思考を活用し、自分なりの社会課題設定などができるようになる
- ・財務諸表の分析などの経営分析手法などから企業の戦

略などを読み解けるようになる

- ・課題設定やそこに至る分析などのテーマに基づくプレゼンテーションで相手に伝える力を養う
- ・質問力を養う
- ・実社会で活躍するロールモデル（自分が目指したい社会人像）をおぼろげなりでもイメージできはじめる

### 【学位授与の方針との関連】

論理的思考、仮説思考、ビジネス戦略構築フレームワークなどを学び、プレゼンテーション実習などを通してコミュニケーションスキルを獲得することまた、講義で教える手法を使っているかという評価に加えて、取り上げるテーマ（社会課題やSDGsなど）に対して自分なりのユニーク性を加えて評価する。

### 【授業計画】

- 第1回 ビジネススキルの前に、まず「そもそもビジネスとは何？」
- 第2回 判断におけるココロの科学（アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）など）について
- 第3回 ビジネスを成功に導くビジネスフレームワーク：戦略構築モデル AS IS-To Be モデルについて
- 第4回 ビジネスを成功に導く思考モデル：仮説思考・論理的思考について
- 第5回 ビジネスフレームワーク、思考モデル演習：事例を使って考えてみよう。なぜ、芸術が日本にビジネスとして根付いたのか？など
- 第6回 社会課題事例：暮らしとつながりのある企業事例、障がい者のおかれている現実についてなど
- 第7回 就活にも役立つ企業の見方「財務データ諸表から企業をみると今まで違ったもの見えてくる」について
- 第8回 ビジネス界で今、はやっていること：「どうしてNetflix はレンタルビデオ会社から 世界的な映像制作・配信会社に変貌しえたのか」などイノベーションのジレンマから両利き経営へ
- 第9回 競争力とは：国の競争力、企業の競争力を事例に
- 第10回 企業が取り組む SDGs、DEI(Diversity, Equity and Inclusion) の事例について
- 第11回 特別講義：伝える力について
- 第12回 プレゼンテーションスキルセミナー：上手なプレゼンとはどんなもの？ 上手な自己紹介って

どうやってつくる？など

第13回 プレゼン作成ワークショップ

第14回 プレゼンテーション実践実習 1

第15回 プレゼンテーション実践実習 2

## 産学連携講座 A2

### 基礎知識としくみの理解

【担当教員】 野村證券株式会社 (寄附講座)

【授業形態】 オンデマンド型授業

### 【授業の到達目標】

証券・金融市場関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や資産形成の際に必要な知識を習得する。

### 【学位授与の方針との関連】

証券・金融市場について知識を深め、社会全般についての教養を習得する。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス・経済情報の捉え方
- 第2回 金融資本市場の役割とその変化
- 第3回 債券市場の役割と投資の考え方
- 第4回 株式市場の役割と投資の考え方
- 第5回 投資信託の役割とその仕組み
- 第6回 リスク・リターンとポートフォリオ分析
- 第7回 外国為替相場とその変動要因
- 第8回 行動ファイナンス～投資家心理について
- 第9回 グローバル化する世界と資本市場の果たす役割
- 第10回 ライフプランと資産形成
- 第11回 公的年金制度について
- 第12回 確定拠出年金について
- 第13回 ポートフォリオの作成
- 第14回 マネープランの作成
- 第15回 まとめ

## 産学連携講座 A2

### 読売新聞による産学連携講座：「ダイバーシティとメディア」

【担当教員】 読売新聞社 (寄附講座)

【授業形態】 対面授業

### 【授業の到達目標】

幅広い視野や深い教養、鋭い観察眼を養うことを目的とする。新聞やネットなど各種メディアからの情報収集法を習得するとともに、ネット空間に氾濫する情報を正しく読み解き、理解する「情報リテラシー」を身につけてもらう。

### 【学位授与の方針との関連】

主体的に課題を発見・解決できる。高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

### 【授業計画】

- 第1回 イントロダクション・新聞の読み方
- 第2回 新聞社・新聞記者の仕事
- 第3回 国際報道と特派員の役割
- 第4回 巨大災害報道
- 第5回 情報パンデミックを追う～フェイクに向き合う知恵
- 第6回 国際写真報道
- 第7回 身近な法律の知恵を身につける（京都司法書士会）
- 第8回 世界からみた日本の大学
- 第9回 科学・医療報道
- 第10回 知的財産保護の重要性と実務（日本弁理士会 D&I 推進委員会）
- 第11回 広告・プランニング
- 第12回 これからの農業
- 第13回 東南アジアと経済安全保障
- 第14回 京都発ベンチャー企業の未来
- 第15回 交流会（講義をした読売新聞記者や企業・団体関係者らと自由に意見交換し、学びを深めてもらう）

## 産学連携講座 B1

新聞を通じて、現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養う。意見や文章を比べ、多様な視点を持つ。

【担当教員】株式会社朝日新聞社(寄附講座)

【授業形態】対面授業

### 【授業の到達目標】

1. 新聞を通し情報リテラシーを高める
2. 社会問題について「自分の意見」「多様な視点」を持つ
3. 社会で求められる「書く力」「伝える力」を養う

### 【学位授与の方針との関連】

1. 新聞記事を通して、社会についての広い教養を培うことが出来る
2. 論作文指導によって、日本語の正確な理解力と表現力を鍛えることが出来る
3. 論作文の執筆を通して批判的・合理的な思考を展開する力を磨く
4. 新聞記事に表現された記者や専門家の考え方を学ぶことによって、高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を学ぶ

### 【授業計画】

- 第1回 「伝える」とは
- 第2回 メディアの特性
- 第3回 文章の書き方①
- 第4回 大学での学び
- 第5回 コミュニケーションと就活
- 第6回 文章の書き方②
- 第7回 震災報道から考える
- 第8回 文章の書き方③
- 第9回 文章の書き方④
- 第10回 国内問題を考える
- 第11回 国際問題を考える
- 第12回 インタビューの手法
- 第13回 実名と匿名
- 第14回 「平和」「民主主義」のゆくえ
- 第15回 講義まとめ

## 連携課題研究

地域連携課題を発見し、専門科目での学びや情報技術を活かした問題解決策を考える

【担当教員】桂 まに子

【授業形態】対面授業&遠隔双方向型授業

### 【授業の到達目標】

1. 地域課題を見つけ、プロジェクトのテーマを設定する
2. 研究テーマに関する情報収集ができる(文献、ウェブ、現地、関係者など)
3. 情報技術を用いた編集・発信に挑戦する(Wikipedia、OpenStreetMap など)
4. テーマについて調べたことをもとに、連携活動を進展させるための提案を行う

### 【学位授与の方針との関連】

女性地域リーダー養成プログラムの一環である本科目においては、主体的に地域の課題を発見し、地域の中で他者との対話や議論を繰り返しながら課題解決策を自ら提案することを目指す。課題の内容によっては、情報通信技術(ICT)を活用した地域貢献の手法を学び、実践することができる。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：Project Based Learning について
- 第2回 地域と企業／行政との連携課題について整理する
- 第3回 プロジェクト準備（リサーチテーマの設定、事前の情報収集）
- 第4回 Wikipedia を用いた地域情報の編集・発信について
- 第5回 OpenStreetMap を用いた地域情報の編集・発信について
- 第6回 プロジェクト設計（問題関心&調査目的についてのミニプレゼンテーション）
- 第7回 プロジェクト実行（1）：テーマに沿った情報収集
- 第8回 プロジェクト実行（2）：調査対象の決定
- 第9回 プロジェクト実行（3）：調査内容およびインタビュー項目の決定
- 第10回 プロジェクト実行（4）：現地調査 # 1
- 第11回 プロジェクト実行（5）：現地調査 # 2
- 第12回 プロジェクト実行（6）：課題解決につながる提案／改善案の提示
- 第13回 研究レポートの作成

第14回 最終報告・講評（最終プレゼンテーション、ディスカッション）

第15回 最終報告・講評（最終プレゼンテーション、ディスカッション）

## 連携課題研究

### 京都の伝統的染織産業の参加体験型課題研究

【担当教員】宮原 佑貴子

【授業形態】対面授業

#### 【授業の到達目標】

- ・ 京都の伝統的染織産業の技術や背景についての知識を得る。
- ・ 染織技術を体験し、固有の魅力や特色について知る。
- ・ 自らの体験と知識を融合し、オリジナルの提案と発表をおこなう。

#### 【学位授与の方針との関連】

【社会性・自律性】

学外の方々と交流するため、社会の規範やルールに従い責任感のある行動をおこなう。また、グループワークによって、組織の中での役割を認識し、協調性を持ちながら個々の力を発揮する機会を創出する。伝統染織産業が抱える課題を発見し、解決するための提案をおこなうことにより、産業継承への貢献を目指す。

#### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：京都の伝統染織産業と大学の取り組み
- 第2回 伝統的染織産業について～リサーチと分析～
- 第3回 伝統的染織産業を活用した取り組みについてのリサーチ発表
- 第4回 伝統的染織産業を活用した取り組みについてのリサーチ発表（講評、ディスカッション）
- 第5回 京都の伝統的染色技法：特別講義「マドレー染の変遷と技術について」生活造形学科青木美保子教授
- 第6回 染色技術の体験について（事前学習）
- 第7回 染色技術の体験について（計画）
- 第8回 染色技術の体験と取材（準備、設営）
- 第9回 染色技術の体験と取材（ロールプレイング）
- 第10回 染色技術の体験と取材（実施）
- 第11回 染色技術の体験と取材（取材）

第12回 染色技術の体験と取材（聞き取り調査）

第13回 プラン提案の企画書作成

第14回 プラン提案の発表、合評（1）

第15回 プラン提案の発表、合評（2）

## 地域社会学

### 現代の社会を地域という視点から理解する

【担当教員】中道 仁美

【授業形態】対面授業

#### 【授業の到達目標】

現代の地域社会は、少子高齢化、グローバル化など様々な課題を抱えている。本授業では、地域社会の現状と基礎理論を学びながら、以下の能力を養成することを目的としている。

1. 現代社会を地域視点から理解する
2. 地域に関する社会学の理論を身につける。
3. 現代社会の構造を理解する。
4. 新しい分析視角の有用性について考え、多様な分析視角を習得する。
5. 批判的・論理的な思考を磨き、意見・考えを文章にする。

#### 【学位授与の方針との関連】

本授業を通して、主体的で批判的・合理的思考を展開できる能力を身につけることを目標にしている。また、現代社会の諸分野の知識・理解に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる能力を養成することを目標にしている。地域社会とは何かを理解し、現代社会における地域の現状と問題について考える。地域社会の歴史と現状を理解し、主要な地域社会学の理論とその展開過程、現代社会と地域の関係について学ぶ。現代社会をより深く理解するため、地域社会学という新たな分析視角を身につける。

#### 【授業計画】

- 第1回 イントロダクション：授業の概略、進め方、注意事項の説明、参考文献の紹介
- 第2回 地域とは何か：農村から都市へ、そして地域へ
- 第3回 地域社会についての理論：農村社会学1（いえとむら）
- 第4回 地域社会についての理論：農村社会学2（過疎化と高齢化）



- 第5回 地域社会についての理論：都市社会学 1（まちとコミュニティ）
- 第6回 地域社会についての理論：都市社会学 2（過密化と高齢化）
- 第7回 世界と地域社会 1：グローバル化とは何か
- 第8回 世界と地域社会 2：世界都市と都市ランキング
- 第9回 世界と地域社会 3：「地域」の再編
- 第10回 「地域」社会の出現：EU の目的と歴史
- 第11回 EU における地域社会再編：住民自治と国家、国家連合
- 第12回 住民自治と地域社会：少子化・高齢化
- 第13回 住民自治と地域社会：過疎化・過密化
- 第14回 地域活性化活動とコミュニティ・ディベロップメント
- 第15回 グローバル化の中の地域社会 定期試験

## 民俗文化論

民衆の文化を通して日本社会と日本文化を学ぶ

【担当教員】竹安 栄子

【授業形態】オンデマンド型授業

### 【授業の到達目標】

- ①「伝統」や「常識」が相対的なものであること、社会の変動の中で構築されるものであることを理解する。
- ②「当たり前」と受け止めている正月や盆などの民俗行事が持つ意味についての理解を深める。
- ③女性が社会で担ってきた役割や女性の地位向上に努力してきた女性たちの現実を事例を通して学ぶ。

### 【学位授与の方針との関連】

「日本民俗文化論」は、日本の民衆文化についての理解を深めることを目的としている。京都女子大学学位授与の方針との関連でいえば、以下の項目に該当する。「(1) [知識・理解] ②人文、社会、自然など、広い教養を有している。」の中の、特に「人文」「社会」についての広い教養を養うのに貢献する。

また、本講義は、「伝統」や「常識」が相対的なものであること、社会の変動の中で構築されるものであることを理解することを到達目標としている。その意味で、学位授与の方針の「(3) [思考・判断] ①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。」に関連している。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 I. イントロダクション
  - 1. 「民俗文化」とは：「民俗文化」発見から民俗学の成立まで
  - 2. 2つの「ミソク学」：「民俗学」と「民族学」
- 第3回 II. 空間の民俗 1
  - 3. 村とムラ①「地域社会」とは：「ムラ」と「村（ソン）」歴史的特性（ムラの行政上の変遷）地域社会としての京都
- 第4回 II. 空間の民俗 2
  - 3. 村とムラ②  
ムラの構造：鈴木栄太郎「自然村理論」
- 第5回 III. 通過儀礼 1
  - 5. 「通過儀礼」とは
  - 6. 婚姻儀礼①
- 第6回 III. 通過儀礼 2
  - 6. 婚姻儀礼②
- 第7回 III. 通過儀礼 3
  - 6. 婚姻儀礼③
- 第8回 III. 通過儀礼 4
  - 7. 葬送儀礼と日本人の祖霊観
- 第9回 V. 年中行事 1
  - 8. 農耕儀礼としての正月行事①
- 第10回 IV. 年中行事 2
  - 8. 農耕儀礼としての正月行事②
- 第11回 IV. 年中行事 3
  - 9. 農耕儀礼から見た正月と盆・七夕
- 第12回 V. 女性と民俗
  - 10. 隠れた歴史：女性の生き方について私たちは何を知っているのか
  - 11. 戦後期の女性とくらし
- 第13回 V. 女性と民俗
  - 12. 女性の社会活動
- 第14回 V. 女性と民俗
  - 13. 戦後日本の形成：女性代議士の誕生  
1946 年女性参政権獲得後、初めての国政選挙で女性はどうに闘ったか

# 2024 年度 連携プロジェクト補助事業一覧

「連携プロジェクト補助事業」は令和元年度で終了した京都市「学まち連携大学促進事業」の後継事業であり、教職員及び学生が主体的に取り組む京都市内における地域連携・社会連携活動を支援することを目的とした補助事業（費用の全額もしくは一部を補助）として継続している。活動にあたっては、下の 이슈別 4 領域（いずれか、または複数）および SDGs と関連付けて取り組むものとする。

## ◆ 이슈別 4 領域

- （1）子育てと高齢者支援
- （2）安心安全・まちづくり支援
- （3）東山の歴史と文化
- （4）京都の産業支援

◆ SDGs17 の目標については、下記参照。

事業名	申請者	連携先	該当する SDG s の番号 イシュー別 4 領域のうち該当する領域
京都刑務所との木育による造形プロジェクト 【→ P13 ～ P14】	矢野 真	京都刑務所	 ① 子育てと高齢者支援
児童養護施設における支援活動 — NPO 団体と連携して — 【→ P15 ～ P16】	仲井 勝巳	NPO 法人エスペランサ	 ① 子育てと高齢者支援 ② 安心安全・まちづくり支援
電車 / 駅構内での性暴力防止を目指して — 学生目線のポスター作成 — 【→ P17 ～ P18】	市川 ひろみ 江口 淑子 戸田 香	京都市交通局 高速鉄道部運輸課	 ② 安心安全・まちづくり支援
人生すごろく「西野山物語～ダンチノキセキ～」 作成～西野山団地居場所活性化プロジェクト～ 【→ P19 ～ P20】	是永 美樹	社会福祉法人 京都福祉サービス協会	 ① 子育てと高齢者支援 ② 安心安全・まちづくり支援
音楽アウトリーチを通じた生涯学習活動 【→ P21 ～ P22】	坂本 光太	社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会 NPO 法人「音の風」	 ① 子育てと高齢者支援 ② 安心安全・まちづくり支援
未来のまちづくりワークショップ： 大阪いばらき気候市民会議 2024 実施について 【→ P23 ～ P24】	諏訪 亜紀	大阪いばらき気候市民会議企画 チーム 環境省近畿地方環境事 務所	 ② 安心安全・まちづくり支援
伝統工芸と図書館 SDGs ～京焼編～ 【→ P25 ～ P26】	桂 まに子	東山区役所 京都市東山図書館 京都府立陶工高等技術専門学校 （下京区）杉元家住宅	 ③ 京都・東山の文化と歴史
駅ナカアートプロジェクト — 京都をアートで元気に — 【→ P27 ～ P28】	江口 淑子	京都市交通局 企画総務部営業推進課	 ② 安心安全・まちづくり支援

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典：国際連合広報センター / 2030 アジェンダ

[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)

# 京都刑務所との木育による造形プロジェクト

●連携先：京都刑務所

発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真  
4 回生 須藤 里奈

## 1. 事業の背景と目的

京都女子大学と京都刑務所の連携協定の一環として、造形教育ゼミ（矢野ゼミ）では、刑務所が主催する「京都矯正展」に平成 28 年度から造形ワークショップ（ワクワク木育キャラバン）による連携を行ってきた。

令和 6 年度では、「妖怪と SDGs」をテーマに、妖怪が持つ文化的背景や象徴的な意味が現代の社会課題に対する認識や理解を深めるきっかけとなることをねらいに、本活動を実施した。妖怪の多くは自然や人間社会のバランスが崩れたときに現れるとされ、これが環境問題や社会的な不平等、倫理的な問題へと繋がると考えた。

京都刑務所との協定を通して、木工作業部が制作する木工品のデザインを学生により提案・提供し、SDGs の視点を取り入れた造形教材として、京都刑務所木工作業部で出た端材を材料として使用した。ペン立て&写真立てをベースに妖怪をデザインし、簡易的かつ可愛らしく仕上げることで、子どもから大人まで幅広く楽しめるようなものを目指した。

本事業では、そのペン立て&写真立てを用いて、京都矯正展における「ワクワク木育キャラバン」造形ワークショップを実施し、地域との連携を通じた学生の「保育者の専門性」としてのコミュニケーション能力の育成を図るとともに、造形による地域貢献を行うことを目的とする。

## 2. 事業の方法

本事業では、学生が提案したデザインを京都刑務所木工作業部がレーザー加工で制作し、その木工品を用いて対面形式のワークショップを実施した。また、デザインの考察・検討を行うため、どの妖怪のデザインを選択するかということについて集計を行った。デザインにおいては、知名度が高い妖怪であったり、人々に恐怖感を与えたりしない特徴を持つ妖怪を中心に選択し、幅広い世代の方々に親しまれるよう、妖怪を可愛らしく表現したペン立て&写真立て（9 個）を考案した。

### 【デザインからフィードバックまでの工程】

- ①ペン立て&写真立てのデザインを 4 回生（学生・9 名）が行う
- ②そのデザインをもとに、京都刑務所内の作業部門で出た端材を中心とした国産材の桧を使って制作する
- ③京都矯正展にて「ワクワク木育キャラバン」を開催し、来場者がペン立て&写真立てのデザイン選択・のこぎり・やすりがけを行う。

- ④来場者に提供したペン立て&写真立てを男女別に集計し、どのデザインに人気が集まったかなどの考察を行う

なお、今回の事業について、調査等の協力者に対し、研究の目的及びプライバシーの保護等の倫理的配慮を伝え、データの使用等について協力者からの同意を得ている。

## 3. 事業の成果

### a. SDGs から捉える妖怪

妖怪のデザインについて、学生の人数に合わせて 9 つの妖怪を SDGs の視点から選択した。妖怪には自然との関わりが深いものが多く、例えば「河童」や「風神雷神」などは自然環境を守る存在として描かれることがある。そうした物語は、道徳や倫理、地域社会の知恵を伝える手段として受け継がれており、妖怪を使った教育を通じて、子どもたちに環境意識や共感の心、協力の大切さを教えることができる。そして、これらは SDGs の 17 の目標に繋がると考えた。以下それぞれの妖怪と 17 の目標との関連性の詳細である。

#### ◎アマビエ

【目標 3】「すべての人に健康と福祉を」

- ・アマビエの役割は疫病予防であり、公衆衛生の重要性を象徴。これを通じて手洗いうがいやマスクの大切さ、感染症対策の啓発につながる。

【目標 14】「海の豊かさを守ろう」

- ・海から現れる妖怪であり、海洋環境や気候変動に影響を受ける存在。

#### ◎餓者髑髏（がしゃどくろ）

【目標 1】「貧困をなくそう」

【目標 2】「飢餓をゼロに」

- ・餓者髑髏は戦場や飢餓で亡くなった人々の怨念が集まって生まれたとされている。これは飢餓や貧困が人々にどれだけ深刻な影響を与えるかを象徴。

【目標 16】「平和と公正をすべての人に」

- ・戦場にあらわれることが多く、戦争や紛争が多くの命を奪い、持続可能な社会を阻む現実を象徴。

【目標 10】「人や国の不平等をなくそう」

- ・この妖怪の背景には弱者や差別されてきた人の怨念が含まれる。社会的格差や不平等の問題を象徴する。

【目標 12】「つくる責任 つかう責任」

- ・「放置された存在」「命やものを大切にしなかった結果」としてとらえることができる。

### 【目標 3】「すべての人に健康と福祉を」

- ・命を脅かす多くの要因が含まれているため、これを通じて誰もが健康で幸せに暮らせる社会の重要性を考える。

### ◎人魚

### 【目標 5】「ジェンダー平等を実現しよう」

- ・「自由を求める女性」といったテーマでの物語が多く存在することからジェンダー教育のきっかけとなる。

### 【目標 13】「気候変動に具体的な対策を」

- ・気候変動が進むと海面上昇や生態系の変化が海洋生物に影響を与える。

### 【目標 14】「海の豊かさを守ろう」

### 【目標 15】「陸の豊かさを守ろう」

- ・海の象徴的な存在であり、海洋生態系や水質汚染の問題を考える。

### b. ペン立て&写真立ての完成

幅広い年齢で長期にわたって使用できるペン立て&写真立てとなっているだけでなく、のこぎりで好きな方向に切れ込みを入れられることで、オリジナル性を持たせた。



### c. 矯正展当日の様子

2日間の矯正展では、幅広い年齢層の方々にワークショップに参加いただき、それぞれ選んだペン立て&写真立てにのこぎりで切れ込みを入れたり、やすりで角を丸くしたり、思い思いに仕上げる様子が見られた。学生は、来場者の方々と交流を楽しみながら、その援助や言葉かけを行った。



集客することを目的に、次々と入れ替わり、整理券を配布しながらのワークショップは全員が初めての経験であったため、運営の難しさやその時々に来場者・ゼミ生の状況に応じた判断力の必要性を実感した。

集計結果からは、よく知られている妖怪かつ可愛いデザインが人気であること、のこぎりによる切れ込みの入れやすさも考慮して、デザインするべきであったことなどが分かった。来場される地域の方々のことを考えたデザイン性の大切さや好みの傾向を知ることができ、学びを深めることができた。

【種類別ランキング】

1 位	2 位	3 位
		
餓者髑髏	アマビエ	人魚

### 4. まとめ

今回の事業では、SDGs の視点を取り入れた造形・木育として、デザインの提案・提供や矯正展でのワークショップ、集計結果の考察などから地域連携活動としての新たな学びの可能性が得られた。地域の方たちと直接関わることは、地域連携をしているということの責任を感じる重要な機会であった。

また、今年度の反省から、デザインのモチーフの統一性や老若男女問わず好まれるデザインの検討、当日の運営やシフトに関する見直し・改善を行い、来年度以降のワークショップに繋げていきたい。

活動内容に関しては、天狗や輪入道など、京都に絡めた妖怪、また新型コロナウイルス感染症の流行により、SNS 上でよく見かけられるようになったアマビエといった妖怪を取り入れることで、子どもたちだけでなく、大人の興味も引くことができた。時期が十月下旬だったこともあり、子どもたちの間では、仮想をしたり、相手を驚かせたりして、ハロウィンを楽しむ姿が見られた。そのため、今回のテーマであった「妖怪」に対する関心も高く、SDGs や造形活動に興味を持ってもらうきっかけをつくることができたのではないかと考えている。

### 謝辞

平成 28 年度より行ってきた連携事業として、今年度も参加させていただけたこと、大変嬉しく思っています。提案・計画を快くお引き受けくださった京都刑務所処遇部作業部門の皆様に厚く御礼申し上げます。



# 児童養護施設における支援活動 ーNPO団体と連携してー

●連携先：NPO法人エスペランサ

発達教育学部 教育学科 仲井 勝巳

## 1. 背景と目的

児童養護施設で生活している子どもたちは、一人ひとり様々な事情を持って暮らしている。例えば、家庭事情により、親と一緒に暮らせない社会的養護が必要な子どもたちが一定数いることが背景にある。事業代表者(仲井)は科学教育の研究者で、小学校の実務経験を持っている。これまでに日本校内の児童養護施設で支援活動に取り組んでいるNPO 団体エスペランサと関わり、フットサル大会などの支援活動(図参照)に参加したことがある。本学着任後、大学生と一緒に施設で暮らす子どもたちに対して、支援活動に取り組もうと本事業を計画した。

本事業は、学生・教職員がNPO 団体と連携し、児童養護施設で支援活動に参加することで、施設で生活する多様な子どもたちのより良い成長に寄与することを目的としている。例えば、子どもたちの学習意欲が向上したり、学習理解が進んだり、生活課題が解決したりすることが考えられる。また、本事業を通して、大学生が子どもたちと関わる仕事(学校教員等)に就く際に、コミュニケーション力が身についたり、子どもたちのことを理解したりすることにも繋がるのではないかと思います、取り組んだ。



図. NPO 団体主催によるフットサル大会の様子 (<https://npo-esperanza-osaka.jimdosite.com/> より引用)

## 2. 事業実施の実施時期と活動内容

主な、実施時期と活動内容は次の通りである。また、活動場所である児童養護施設は関西圏にある。

2024 年 7 月上～中旬：NPO 代表の講話・面談を随時実施

2024 年 9 月 21 日：施設のボランティア活動

2024 年 9 月 23 日：NPO 団体主催フットサル大会の支援

2024 年 10 月 20 日：施設のボランティア活動

2024 年 11 月 30 日：施設のボランティア活動

2025 年 1 月 26 日：施設のボランティア活動

2025 年 2 月 21 日：プロジェクト報告会で発表

ボランティア活動の内容は、主に幼児～小学生が対象で、学習支援(学校の宿題など)、生活支援(遊びや話し相手)を行った。また、地域社会で実施される運動会や子ども会と一緒に参加した。なお、フットサル大会当日に関しては、大学の授業日であったため、大学生の参加が難しく、事業

代表者(仲井)が参加し大会運営の支援活動を行った。

参加した学生(2024 年度)は、以下の 6 名である。

- ・黒川莉子(1 回生)・札野なな子(2 回生)
- ・三上菜穂子(3 回生)・日野みちる(3 回生)
- ・中谷えあ(3 回生)・村田咲穂里(3 回生)

## 3. 事業の成果(学生の振り返り・報告資料から)

学生の振り返り(抜粋)や報告内容を紹介し、事業の成果を整理する。なお、施設や子どもたちの理解、学生自身の成長などが読み取れる内容は下線を引いた。

【2024 年 7 月の NPO 代表の講話を聞いて】

- ・代表の話聞いて、今まで私は児童養護施設という施設があり、様々な事情を抱える子供たちがそこで生活しているという認識だけ持っていました。あまり関わることの無い世界で、私は「周りの子とは少し違うのかな」と知らないうちに偏見を持っていることに気づきました。お話の中で、残念ながら養護施設に悪いイメージを持つ人が一定数いることを知りました。「知らない」というだけで勝手なイメージを抱いてしまう可能性もあると思います。その点では、今回お話を聞く中で自分の中でも初めて知ったことや気づきが得られたので、とても良い機会だったなと感じました。
- ・代表のお話を伺い、児童養護施設における子どもたちの現状について深く考えさせられました。「子どもたちに笑顔を」という言葉に、どれだけの心のこもった支援が必要かを実感しました。特に、自己決定の機会がないために、自信を失いがちな子どもたちや、信頼できる大人がいない環境で育つ子どもたちの課題が心に残りました。だからこそ、将来教師を目指している身として、一人の人間として、子どもたちが何を求めているのか、学校で私たちに何ができるのかを真剣に考える必要があると強く感じました。そのために、今回の貴重な機会を通して、子どもたち 1 人ひとりに対して、隣で一緒に目線から耳を傾け、話を聞くということから始めたいと感じました。総じて、お話を伺って、子どもたちに寄り添い、彼らの声を真摯に受け止めながら、共に歩んでいく姿勢が大切だと改めて思いました。

以上、実際に支援活動をしている NPO 代表の講話から、参加学生は児童養護施設で暮らす子どもたちの現状を知り、関わり方について考える機会となったといえる。事前に実態を知ること、子どもたちと具体的にどのように関われば良いのか、心構えができたのではないかと考えられる。

【支援活動後の振り返り・報告から】

- ・今回ボランティアに参加させていただいて、様々なことを学ぶことが出来ました。最初は子どもたちとどう

関われば良いか、とても緊張していたこともあり少しぎこちなかったと思います。しかし、積極的に子どもたちとコミュニケーションを取ると、次第に子どもたちの方から関わろうとしてくれて、嬉しく思いました。一緒に鬼ごっこをしたり、かくれんぼをしたり、また自分で書いた絵も見せてくれました。実際に子どもと遊んだり関わったことで、反省点や次は自分でこういう行動がとれたらいいな、などたくさんの気づきを得られました。この経験が、実習時や将来子どもたちと関わる時に、活かすことが出来たら良いなと思いました。(9/21)

- 一緒に地域の運動会のお菓子取り競争に出場しました。子どもたちは人見知りすることなく私たちと関わってくれました。子ども同士もとても仲良く、中学生、高校生くらいの子どもたちが幼稚園生の子の面倒を見ているのが印象的でした。施設に戻ってから子どもたちはとても元気に走り回ったり、テレビを見たりと活発に活動している姿がみられました。私たち自身、中学生、高校生との接し方が難しく感じる場面も多くあったので、今後関わりを深めていく中でそういった接し方も学んでいけたらと思います。(10/20)
- 4.5.6歳の子どもたちと公民館に行き、町の子ども会みたいなものに参加した。子ども会では、グラウンドでは風揚げや竹馬などの遊びをしていた。体育館では、舞台でのマジックや風船や折り紙遊び、輪投げなどの催しがあった。子どもたちは地域の人や、同じくらいの年の子どもたちと関わりあっていた。特に、地域の大人との関わりでは挨拶やお礼などのやりとりを通して成長していつている様子が見られた。(11/30)
- 今回は、短い時間であったが地域の子ども会に参加した。20分ほど一緒に歩いて向かった。歩いていく中で、自分が行ったことのある場所について沢山話してくれたり、自分でルールをきめて遊びながら歩いたりしていた。私の事を覚えていたかは分からないけれど、前回会った時よりも初めからたくさん話をしてくれる印象だった。(…略)。全体を通して、初対面の時にどのような性格などかなどを把握できたため、話し方などにも意識して関わるようにした。そのためか、たくさん話すことが出来て良かった。(11/30)
- 私はこれまでに3回、児童養護施設での活動に参加させていただきました。主にグラウンドで子どもたちと遊んだり、宿題を見たりすることが多かったんですが、初めて会う子どもたちもすぐに話しかけてくれて、すぐく自然に関わることができました。(…略)。私自身、「もっと何かできたんじゃないか」と考えることもありましたが、職員の方とお話する中で、「話を聞くことも大切な関わり方の一つ」という言葉をいただき、そ

れを意識しながら活動するようになりました。将来、教師を目指している身として、そして一人の人間として、子どもたちが何を求めているのか、そして学校で自分たちに何ができるのかを、もっと真剣に考えなきゃいけないと思いました。そのためにも、まずは子どもたち一人ひとりと同じ目線で向き合っ、話を聞くことから始めたいなど感じています。今回の経験を通して、子どもたちに寄り添いながら、気持ちをしっかり受け止め、一緒に歩いていくことの大切さを改めて実感しました。そして、この活動を一度の経験で終わらせるのではなく、これからも継続的にボランティアに参加し、子どもたちと関わっていきたいと考えています。(2/21 学生の報告内容より)

以上、実際に支援活動に取り組んだ学生から、子どもたちとの関わり方で、自ら関わりを持とうと意識すること、子どもたちから関わり話してくれることについて振り返ることが多かった。また、幼児や小学校の学年が低いほうが関わりやすい傾向があること、施設の子どもたちは地域社会の行事等を通して成長することに理解を深めた。支援活動の回数を重ね、子どもたちの性格を把握し、関わり方を工夫して接するようにつとめていた。その中でも、将来教員を目指している学生は、子どもたちが求めているものを把握し、話を聞くことを大切にしていきたい、継続的に支援活動に取り組みたいという思いを持つことがわかった。

#### 4. まとめ

NPO 団体代表の講話を聞いて、児童養護施設における団体活動や子どもたちの取り巻く環境を知り、実際に支援活動をする中で、子どもを理解することにつとめた。特に、学生が子どもたちと一緒に遊んだり勉強したり、地域の運動会やお祭りに参加したりすることで、関わり方を工夫することができた。また、児童養護施設と地域社会と関わって育つことも知った。支援を重ねるごとに、子どもたち(施設職員含む)と信頼関係を築くことができた。今後も支援活動へ参加を希望する学生もいることから、継続的に支援活動に参加することで、子どもたちのより良い成長や学生の学びになるといえる。今回の活動は、大変実りあるものとなり、今後も継続して続けていきたい。

#### 謝辞

連携先である「NPO 法人エスペランサ」の皆様、児童養護施設の職員の皆様、関係の皆様には、大変お世話になりました。施設で暮らす子どもたちのより良い成長に少しでも寄与できれば幸いと存じます。誠にありがとうございます。



# 電車／駅構内での性暴力防止を目指して —学生目線のポスター作成—

●連携先：京都市交通局 高速鉄道部 運輸課

法学部 法学科 市川ひろみ  
家政学部 生活造形学科 江口 淑子  
ジェンダー教育研究所 戸田 香

## 目的

公共交通機関である鉄道・駅構内で発生している痴漢や盗撮などの性暴力に注意喚起を行い、ジェンダーを問わず、誰もが安心して利用できる環境づくりを目指す。性暴力が軽視されている社会に対して、学生の立場から問題提起を行う。また、本プロジェクトに参加している学生を含めて、自分自身が性暴力問題の当事者である自覚を持つ。

## 意義

痴漢や盗撮などの性暴力は被害者に精神的・身体的に深刻な被害を与えるが、社会では重大な犯罪であるとみなされておらず、軽視されているのが現状だ。この状況下で制作されてきた痴漢・盗撮などの防止を目的とするポスターの多くは、被害者となりうる人に対して呼びかけているものである。その内容としては、被害者に対して自衛や周囲への助けを求めることなどが挙げられる。しかし、このような従来のポスターは重大な問題をはらむ。痴漢・盗撮行為の発生は被害者となりうる人の自衛だけで防げるものではなく、被害者自身が「自分に落ち度があったのではないかと自身を追い詰めてしまう可能性もある。痴漢・盗撮行為の被害者は、被害を受けたことに何ら責任を負う必要はない。

また、これらのポスターが訴える対象は、被害者・加害者・犯罪現場に居合わせた人などの当事者でとどまっていることが多い。しかし、被害者が第三者からの言葉で精神的な苦痛を受ける「セカンドレイプ」などの例から、痴漢・盗撮等の性暴力は現場の当事者たちだけで完結する問題ではないことは明白である。

本プロジェクトでは、こうした従来の痴漢・盗撮防止のポスターの問題を踏まえて、ポスターを制作した。そして、痴漢・盗撮は当事者だけの問題ではなく、全ての人が当事者意識を持つ必要があると考え、社会全体に性暴力について考えるきっかけを提示することを重視した。ポスターが掲示されることで、性暴力による深刻な被害の実情を認識し、誰もが問題の当事者であることを意識する可能性が期待できる。

## 活動の経緯

本プロジェクトにおけるポスターの制作活動と公共交通機関各所との連携は、2021年より開始した。昨年度の2023年には京都市交通局の協力を得て、共同で痴漢・盗撮撲滅ポスターを制作した。完成したポスターを発表するプレゼンテーションを行ったのち、市営地下鉄の車内・駅構内に掲出された。

そして2023年度の活動メンバー数名が、2024年度も継続して本プロジェクトに参加し、中心となってポスター制作

を行った。2024年7月には法学部市川ひろみ教授の「平和と女性」、家政学部江口淑子准教授の「デザイン実習」、ジェンダー教育研究所戸田香助教の「政策学」にて、これまでの活動説明を行い、募集要項を配布して2024年度の活動参加者を募集した。これに法学部法学学科、現代社会学部現代社会学科、家政学部生活造形学科、文学部史学科の学生が応募し、中心メンバーを含めた計13名が7月より2024年度活動メンバーとしてポスター制作に取り組んだ。本活動には、データサイエンス学部一力知一客員教授も議論に参加し、さまざまなアイディアの提示が行われ、講義内でも活動の詳細を取り上げた。

## 京都市交通局との連携

京都市交通局との連携を引き続き要請した理由は、昨年度の活動過程における、京都市交通局側の痴漢・盗撮行為に対して真摯に課題解決に向かう姿勢と、本活動への積極的な協力で感銘を受けたからである。7月29日(月)には、オンライン上で交通局とのミーティングを実施した。公共交通機関で発生する痴漢・盗撮行為に対する問題意識などを共有し、この日以降の活動計画を立てた。

メンバー13名はポスター班・ウェブページ班・広報班の3班に分かれ、11月28日(木)に実施した報道向けの制作発表会まで、毎週火曜日の5・6時限目に制作を行った。

7月末頃からポスターに記載する標語や構図をメンバー間で議論し、9月初頭には本格的にポスターの制作を開始した。ポスター班は、挙がった案をもとに試作とブラッシュアップを繰り返した。ウェブページ班は本プロジェクト専用のウェブページ作成を担当し、広報班は制作発表会当日に向けて報道機関向けにプレスリリースの資料を用意するなど、外部に向けての発信を担当した。

10月15日(火)には京都市交通局高速鉄道部運輸課の職員2名が来校され、意見交換会を実施した。ポスターやウェブページについて意見を伺い、本プロジェクトメンバーも痴漢・盗撮行為の撲滅や本活動に対する思いを伝えた。ポスターを見る受け手側に、自分たちの意図がより伝わるように検討を重ねた。

約2カ月間に及んだ制作期間を経て、ポスターが完成した。ポスターは、京都市営地下鉄の烏丸線・東西線の31駅全ての駅構内と電車内の中吊りに掲示された。なお、期間については、駅構内が11月29日(金)より順次、電車内については12月中旬頃より掲出された。

## 問題意識

従来のポスターは被害者に行動を求める内容のものが多

い。この内容は、痴漢・盗撮の問題は被害者の自己責任であるという認識のズレと、それが日本社会に蔓延している表れだとプロジェクトメンバーは考えた。認識のズレが発生する原因として「痴漢・盗撮は『いたずら』であるという認識」、「痴漢・盗撮行為の多くが軽い罰則で済まされていること」、「痴漢・盗撮に誤った認識を持っていること」が要因に挙げられると分析した。

標語や構図を練るにあたり、昨年度のプロジェクトメンバーが提案した、加害者・被害者ではない第三者を「被害者に寄り添う第三者」、「傍観する第三者」、「加害者の肩を持つ第三者」の3パターンに分類したものを基軸とした。「傍観する第三者」、「加害者の肩を持つ第三者」が被害者へ責任転換をする内容の言葉を、「被害者に寄り添う第三者」が励ますつもりでかけた言葉が性暴力を助長すると考えた。これらの言葉は法やメディア、SNSによって流される、痴漢・盗撮に対する誤った認識、時には被害を矮小化するような情報から生まれる。この環境に囲まれて生活している私たちは、立場に関係なく、無意識のうちに痴漢・盗撮を軽視して生きていることになる。このような痴漢・盗撮が軽視された社会に対し、「性暴力の『深刻さ』を伝え、性暴力に対する社会の目が厳しくなることを目指す」ことを、本年度の活動のコンセプトおよび目的として、ポスター制作に取り組んだ。

## ポスターの内容

ポスターには「深刻な被害、軽視しない社会へ」という標語とともに、「痴漢？大したことない？」という文が描かれた紙を破る様子が描かれている。標語は、本年度のコンセプトである「社会で軽視されている性暴力の『深刻さ』を伝え、性暴力に対する社会の目が厳しくなることを目指す」ということを、ストレートに表現した。痴漢・盗撮を軽視している社会に対し、問題提起を行い、「性暴力に対する社会全体の意識を変える」という、私たちの決意を表した。また、手を白色にすることで、人種やジェンダーを特定せず、社会全体の問題であることを表現した。右下のQRコードを読み込むと、本プロジェクトの専用ウェブページにアクセスできる。様々なコンテンツが掲載され、誰もが性暴力について気軽に考えられる仕組みとなっている。

社会に生きるひとりひとりが痴漢・盗撮問題の当事者である意識を持つように、ポスターのターゲットは「痴漢・盗撮を軽視し続ける『私たちも含めた社会全体』」に設



定した。今年度のポスターには「痴漢・盗撮を軽視していることに気づいてほしい」、「社会に残る軽視の姿勢によって、深刻な被害を受けている人がいることを知ってほしい」、そして、「性暴力の問題を他人事と思わず、誰もが当事者である

ということを認識してほしい」という強い思いである。このような思いを込めたポスターを通して、本プロジェクトは今後も性暴力の軽視を許容しない社会の実現を目指す。

## メディアの報道とシンポジウム開催

制作発表会では各社報道機関の取材があり、NHK 京都放送局、京都民報 web で報道された。それによって、大学内にとどまらず外部にまで、広く、学生や本学教員、京都市交通局の方々がこの取り組みにかけける想いを発信することができた。

そして 2025 年 1 月 15 日 (水) には、性暴力撲滅プロジェクト初となる公開シンポジウムを実施した。「私たちは性暴力の軽視をなぜ許す？—社会を構成する一員として考える—」と題し、制作発表会に引き続いて京都市交通局の職員 2 名に参加していただき、講師としてソーシャルワーカーの齊藤章佳氏をお招きした。齊藤氏が勤める依存症治療施設で、性犯罪加害者の治療に関わっておられるご経験を踏まえ、「加害者臨床の現場から」という視点で本プロジェクトを評価し、痴漢・盗撮についてご講演いただいた。講演後にはパネルディスカッションを行い、齊藤氏、交通局の職員 1 名、プロジェクトメンバー 2 名が登壇者として参加した。性暴力問題に当事者意識を持つ三者の視点から、なぜ痴漢・盗撮が軽視されているのかを分析した。立場の違う方々の意見を取り入れられ、私たちの知り得ない視点から性暴力と社会について考える良い機会となった。

## 成果

メンバー同士で積極的に議論を重ね、協力して準備を進める過程は、性暴力撲滅に対する意識と課題解決への関心を強めた。制作発表会やシンポジウムで、様々な立場や組織との連携は、大学卒業後には社会人として課題の解決に当たるという自覚を持たせた。性暴力を他人事と思わず、誰もが当事者意識を持って解決しなければならない、深刻な社会問題であるという認識を深めることができた。また、そうして深めた問題意識をポスターという形で世に発信し、性被害を軽視する社会の現状に一石を投じた。



# 人生すごろく「西野山物語～ダンチノキセキ～」作成 ～西野山団地居場所活性化プロジェクト～

●連携先：社会福祉法人 京都福祉サービス協会

家政学部 生活造形学科 是永 美樹

## 活動の背景

京都市営西野山団地は、昭和 44 年に居住を開始した築 50 年度超える RC5 階建ての集合住宅です。2019 年卒業研究（今西萌さん）「住まいを開いた高齢者の居場所づくり」で岩倉にある認知症カフェを調査したときのご縁で、5 号棟 1 階の空き住居をカフェと相談室へ改修するプロジェクトの改修設計に関わることになりました。このカフェと相談室は、団地住民や地域の人たちの居場所として、社会福祉法人京都福祉サービス協会が開設するものです。是永研究室で改修設計のデザインと工事監理を行いました（2023 年 10 月～2024 年 5 月）。

改修設計担当：児玉菜摘さん、富田藍さん、藤田唯夏さん、三田村佳苗さん、揉井日奈子さん、山本万紀子さん（設計を始めた 2023 年度は 3 回生）

## 改修設計

5 号棟の 106 号室と 107 号室は約 40㎡、「DK＋水廻り＋和室 2 室」の典型的な団地の間取りです。隣接する 2 戸戸が対象となるため、106 号室は静かに落ち着いて相談等ができる図書室のような場所、107 号室は住民や近隣の人たちが気軽にしゃべりができるような賑やかな場所として、隣り合う 2 室の性格を変えた居場所にすることにしました。両室とも水廻りの壁以外の間仕切りは撤去して広い空間を確保しました。106 号室には、団地の「図書室」となるように壁面全体を軸材だけで組む本棚とし、一部に小上がりをつくりました。小上がりの壁面には、「木」をイメージした本棚をつくり、表紙を見せて絵本が置けるようになっていきます。107 号室は入口側のカウンターを曲線とし、柔らかく人を迎え入れるようにしました。押入は天袋だけ残して奥に入り込むような畳敷きのベンチとしました。築 50 年を支えてきた RC の躯体の力強い表情を残しながら、木目の表情を重ねることで、団地らしさを活かした仕上を検討しました。106 号室は本棚と天井を木の線材で構成し、107 号室はキッチンのカウンターやギャラリーにもなる壁面、押入れベンチの背面などに面材を採用し、素材を統一しながらも木の表現を差異化することで、それぞれ特徴的なインテリアに仕上がりました。



図1 相談室 106



図2 Cafe107

## 居場所の活性化

2024 年 6 月から運営が始まった西野山団地のカフェ 107 と相談室 106 を、団地住民や近隣の人たちに日常的な居場所としてもっと楽しんでもらえるような企画を考えることになりました。まち歩きをして危険なところを把握した非難ルートマップをつくる、かるたづくり、などのアイデアができました。京都福祉サービス協会の方から、「この団地に住んでいる人の中にものすごい経験をした人がいっぱいおられる」とうかがい、そんなエピソードを集めた記録集をつくる、というアイデアもできました。最終的にカフェや相談室にくる人たちが一緒に時間をすごせるようなボードゲームがよいのではないか、ということになり、住民さんに人生のエピソードをヒアリングして印象的なエピソードを並べた「人生すごろく」をつくることになりました。

## ヒアリング

是永研究室の 3 回生（有吉佑加さん、興優花さん、小林未歩さん、仲尾紘香さん、原田菜月さん、溝渕優香さん、矢崎公美子さん）が、団地やカフェのイベント時に住民さんに人生のエピソードについてヒアリング（計 3 回）を行いました。ヒアリングでは、学生から「これまでの人生で印象的な出来事や大変だったことなどを教えてください」と質問するのですが、話がどんどんそれていって「最近の若者は〇〇をどう思う?」「〇〇はどういうもの?」など、学生が住民さんから逆に質問されるということも多々ありました。ヒアリングというよりは楽しくしゃべりながら、いろいろなエピソードを収集することができました。

## 人生すごろく「西野山物語～ダンチノキセキ～」

収集したエピソードを年代を意識しながら、西野山団地周辺のマップをベースにした A1 サイズのボードにレイアウトしました。

よくあるボードゲームでは、お金を集めて「一番お金持ちの人が勝ち」というルールで遊びますが、今回の人生すごろくでは、お花のマークのところに停まると手作りの「お花」がもらえ、次第にそれが「花束」になり、最終的に「お花」を一番集めた人が勝ち、というルールになっています。例えばゲームでも、「お花」をもらおうと気持ちがほっこりし、ゲームをしている少しの時間でも気持ちが和らいでいただければ、という学生の願いも込められています。

また、このボードゲームでは、止まったマスのエピソードを読み上げるということをルールにしました。こうすることでゲームに参加している人がほかの住民さんの人生を共有でき、一緒に笑ったり懐かしんだり、人生の機微を多世代

でシェアできるボードゲームになっています。

また、「この人生すごろくのゴールは?」と思われた方、このゲームの最後のマスには「今が一番幸せや～」と書いてあります。これはヒアリングで、何人もの住民さんから度々聞かれたリアルな「言葉」です。いろいろあった人生、だけど穏やかで平穏な今が幸せ、という住民さんの思いは、学生には貴重なメッセージとなったと思います。

ヒアリングした学生は20代になったばかり、ヒアリングした住民さんは70代～90代、半世紀分もの人生を聞いた学生にはどんな人生勉強になったのでしょうか。



図3 ヒアリング終了後の集合写真



図4 団地住民へのヒアリング



図5 団地住民(自治連合会長)へのヒアリング



図6 完成したボードゲームと一緒に遊ぶ (Cafe107)



図8 人生すごろく「西野山物語～ダンチノキセキ～」



図7 完成したボードゲームと一緒に遊ぶ (相談室106)



図9 モヘアの針金で学生が手作りした「お花」とフェルトで作ったサイコロ



# 音楽アウトリーチを通じた生涯学習活動

●連携先：社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会・NPO法人「音の風」

発達教育学部 教育学科 音楽教育学専攻 助教 坂本 光太

## 1. 実施の背景と目的

現代の地域社会は、急速な少子高齢化や人口減少といった人口構造の変化に直面している。本学が位置する京都市東山区では、過去 30 年間で約 15,000 人もの人口が減少し、0 歳から 14 歳までの子どもの数が約 2,600 人減る一方で、65 歳以上の高齢者は約 2,000 人増加している。こうした顕著な人口動態の変化は、世代間交流の機会を減少させ、地域社会におけるコミュニケーションの希薄化や文化的連帯感の衰退をもたらす恐れがある。

本事業では、このような背景に対し、大学が地域社会と連携しながら音楽アウトリーチ活動を行うことにより、異なる世代をつなぐコミュニケーションの架け橋を築き、地域社会に新たな活力をもたらすことを目指した。具体的目標は、以下の 3 つである。

### ①地域住民に対する文化体験の充実

幼児から高齢者まで多様な世代が音楽を介して交流し、新たな学びや楽しみの機会を得る。

### ②生涯学習の視点からの地域振興

行政が推進する生涯学習施策に寄り添い、地域コミュニティの活性化と世代間交流を促進する。

### ③学生にとっての実践的学習機会の創出

音楽の専門性を活かしながら、地域住民との直接的な触れ合いを通してコミュニケーション力や企画運営力を育む。

これらを通じて、学生にとっては教室内の理論学習を地域社会での実践に結びつける場となり、地域にとっては幅広い世代を対象とした学習機会（音楽体験）の提供につながることが期待される。

## 2. 事業の方法

「音楽アウトリーチ活動」とは、演奏者が通常の舞台やコンサートホールを離れ、地域の学校や福祉施設などに直接足を運び、演奏やワークショップを通して音楽を届ける活動を指す。本事業では以下の 2 つのアウトリーチ活動（A, B）を展開した。

### A. コンサート動画の制作と配布

活動学生：音楽教育学専攻 3 年生 8 名（声楽管楽器ゼミ）  
活動内容：演奏内容の選定、ナレーションや楽器紹介、参加型楽曲などを学生自身が企画・構成し、コンサート形式の動画を制作。

配布先：京都市東山区の保育園、こども園、児童館、高齢者施設など 30 余りの施設

期間：2024 年 7 月に制作着手、同年 12 月に各施設へ配布  
（概要）コンサート動画には、児童と一緒に歌える童謡から、高齢者にも馴染み深い流行歌、最近の J-POP やミュージカルの音楽など多彩なジャンルを盛り込んだ。また、画面越しに手拍子や簡単な動作で参加できる工夫や、楽器の仕組みを紹介する学習要素を取り入れることで、受け手が年齢を問わず学びや楽しみを得られる内容とした。あわせてプログラムや歌詞をまとめたハンドアウト(図 1)を配布し、繰り返し学習・鑑賞ができるように配慮した。

### B. 訪問演奏の実施

活動学生：音楽教育学専攻管楽器ゼミの 3 年生・4 年生  
活動内容：東山区内の福祉施設や学校などでの出張演奏会（対面）を 4 回実施

期間：2024 年 6 月～2025 年 1 月

（概要）地域の各施設・イベント会場に出向き、直接の演奏機会を提供した。加えて、演奏後には参加者との対話の時間を設けるなど、世代間・多様な立場間でのコミュニケーションと学びが自然に生まれるように工夫した。

## 3. 事業の成果

### A. コンサート動画の成果

約 30 の施設に動画を配布した結果、「動画を通して何度も演奏を楽しめる」「子どもが自然と手拍子や合唱を始めた」「施設内で繰り返し流すことで、利用者同士の会話のきっかけになった」などの声が寄せられた。特に、繰り返し視聴できる特性により、個々のペースで学びと鑑賞を深められる点が高く評価された。

また、制作にあたった学生たちは、幅広い世代を意識した選曲やナレーションを考案する過程で、音楽的知識だけでなく、相手の年齢や文化的背景を想像する力を養うことができた。さらに、動画の編集や演出面でも試行錯誤を重ねたことで、実践的な企画力・技術力を身につける機会となった。

### B. 訪問演奏の成果

①『修道ふくし祭り』訪問演奏（2024 年 6 月 21 日、東山総合支援学校、主催：修道社会福祉協議会）

4 名の学生が地域の高齢者、総合支援学校の生徒、住民一般を対象とする文化祭に出演。昭和の懐かしのメロディから最新ヒットソングまでを演奏し、世代を越えた盛り上がりを見せた。最後には来場者全員で「ふるさと」を斉唱し

会場全体が一体となる音楽体験が生まれた。(写真1)



写真1: 若年層に人気の曲「Bling-Bang-Born」を奏し、総合支援学校の生徒が即興的に参加する様子。

②『年末交通安全イベント』訪問演奏(2024年12月2日、大本山建仁寺境内、主催:東山警察署)

学生4名が「YMCA」「人生のメリーゴーランド」「ふるさと」などを演奏し、舞妓さんや保育園児とともに交通安全を啓発した。演奏や警察署長の講演をきっかけに、子どもから大人、地元民から観光客までが気軽に集い、音楽を楽しみながら交流できる場となった。(写真2)



写真2: 管楽器アンサンブルの演奏を見届ける舞妓さんの様子。

③『修道健康すこやかサロン』訪問演奏(2024年12月18日、東山総合支援学校、主催:修道社会福祉協議会)

地域の高齢者を中心とするコミュニティのクリスマス会にて、4名の学生が季節の歌や昭和のヒットソング、クラシック曲などを演奏。音楽が進むにつれ、参加者同士が自然に思い出話を交わすなど、音楽を媒介としたコミュニケーションが活発に行われた。

④『いまくまの管楽器コンサート』訪問演奏(2025年1月16日、グループホームいまくまの、主催:地域密着型ケアセンターいまくまの)

3回生の管楽器アンサンブル4名による40分のコンサートを実施。高齢者からは「懐かしい曲を生演奏で

聴けて嬉しかった」「昔を思い出して涙が出た」などの声上がり、音楽が持つ効果が大きく感じられた。(写真3)



写真3: 高齢者のすぐ近くで演奏する学生たちの様子。

## 4. まとめ

本事業では、音楽アウトリーチを通じて幼児から高齢者まで、さらには多様な特性を持つ方々に向けて幅広い音楽体験を提供した。ジャンルを横断する多彩な選曲や参加型の工夫によって、世代や背景を超えた学びと楽しみが生まれ、対面の訪問演奏では実際に世代間の交流や地域コミュニティの再活性化が促された。さらに、生涯学習の観点から見ても、地域住民にとっては新しい音楽や懐かしの曲を通じて学びや刺激を得られ、会話や交流の機会が広がるという意義が確認される。学生にとっては、地域社会での実践活動を通して企画力やコミュニケーション力、演奏スキルを総合的に高めるとともに、異世代や多様な背景を持つ人々への理解を深める機会となった。これらは、少子高齢化が進む地域における生涯学習や文化振興の一環として、住民の学習意欲を喚起し、持続的な活動の基盤を形成する契機になると考えられる。このように、本学の学生が地域住民と触れ合いながら音楽を媒介に学びあう場を作ること、単に演奏を楽しむだけでなく、生涯にわたる学びの意欲や多様な世代間の理解を促す取り組みとして大きな意義を持つ。今後もこうした活動を継続・発展させることで、音楽と学習、地域との連携がさらに深まり、より豊かな地域コミュニティの形成に寄与すると期待される。

## 謝辞

本プロジェクトの実施にあたり、社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会ならびにNPO法人「音の風」の皆様には、格別のご理解とご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。



# 未来のまちづくりワークショップ: 大阪いばらき気候市民会議2024実施について

●連携先：大阪いばらき気候市民会議企画チーム 環境省近畿地方環境事務所

現代社会学部現代社会学科 諏訪 亜紀

## 1. はじめに

気候市民会議とは、無作為に選ばれた市民が集まり、気候変動対策について議論し、提言をまとめる会議である。市民が主体となって、科学的知見を得ながら対話と熟慮を重ね、気候変動に対する具体的な対策を考えるもので、特定の業界や利害関係者の影響を受けにくく、多様な市民の意見を反映した対策を提示できる点に特徴があるとされる(三上, 2022)。日本でも、札幌市や川崎市などで気候市民会議が開催され、自治体の気候変動対策の計画づくりに活用されているが、西日本では開催実績は確認されていない。気候変動の影響が全国で顕在化される中、市民意識の醸成も全国的に展開される必要がある。以上の文脈から、2024年12月15日に「未来のまちづくりワークショップ～大阪いばらき気候市民会議」を開催した。

## 2. 会議企画の経緯

本会議は、大阪いばらき気候市民会議実行委員会が主体となり、大阪大学 CO デザインセンターと京都女子大学諏訪研究室との共催で実施に至った。なお、京都女子大学現代社会学部諏訪ゼミ 2024 年度 3 回生が当日の運営に関わった。茨木市環境審議会委員を筆者(現代社会学部・諏訪)が務めている関係もあり、茨木市で気候市民会議の開催を目標に活動していた市民グループのメンバーとの協力体制構築を模索する形となった。なお、気候市民会議開催に経験のある大阪大学 CO デザインセンターとの共催でもあり、この文脈からも大学と市民の共同作業といえる。

## 3. 気候市民会議参加者確保に関する課題と対策

気候市民会議発祥の地とされるフランスなどでは、社会全体の縮図となるように無作為に選んだ参加者が議論する。具体的には、一般から参加者をくじ引きで選ぶなどのプロセスにより、社会の縮図を再することで代表性の確保を試みていた。この流れを受けて、日本に同様の会議体が導入された折には、行政の住民データから無作為抽出によって募集の対象者を抽出するのが基本とされるようになったようである(同上)。

しかし、住民データへのアクセスを確保するためには行政との密接な協力関係が必要であり、これが我が国での気候市民会議実施の大きなハードルとなっている側面がある。

また、仮に住民データにアクセスできたとしても、参加者を募集するための各種費用は会議主催者(特に会議主催者が市民団体などの場合)が賄うことのできる範疇を大きく超える傾向もある。

そこで今回は、対象地域を従来の事例に比べかなり限定することによって、これらの障壁を下げた形で実施し、その効果を検討することとした。このため、対象地域は茨木市立茨木小学校区住民(16,291人、8,248世帯、チラシ配布は6,515枚)とした。



(図1) 配布チラシ(表面のみ)  
(大阪いばらき気候市民会議実行委員会提供)

チラシ配布後、本来であれば、母集団の属性に基づく代表性を確保するように参加者を選定するべきであるが、応募者数が少なかったため希望者は全員参加することとなった。当日の参加者は、4名(男性3名、女性1名)である。

なお、今後茨木市以外でも同様の会議の実施への関心が一定程度あることから、上記4名以外に茨木市民3名及び市外の市民5名が招待され参加した。

## 4. 会議の概要

本会議は、茨木市文化・子育て複合施設(おにクル)にて実施された。会議実施に先立ち、事前に、気候変動のメカニズム、影響及び対策について東京大学江守正多氏による解説動画の視聴を求めた。

当日の流れとしては以下の通りである。

1. 事前に視聴した動画の内容に関する質疑応答
2. 茨木市における地球温暖化対策実行計画等(茨木市環境政策課)と気候変動の影響について(京都女子大学 諏訪亜紀) 概要説明
3. グループワーク
4. 発表・投票

茨木市民で構成される2グループ、市外の市民で構成されるグループの主に計3グループをつくり、各グループの議論は専門のファシリテーターがリードした。

議論の結果は、アクションプランとして会議開催後に取りまとめられた。プラン概要としては、森林・自然、再生可能エネルギーの地産地消、消費・廃棄・農業、交通・まちづくり、住まい・建物・省エネといったカテゴリー別に、参加者の期待を反映する形となっている（図2）。



（図2）アクションプラン  
（大阪いばらき気候市民会議実行委員会提供）

## 5. アンケート結果

会議実施後に大阪いばらき気候市民会議実行委員会と京都女子大学の学生による二つのアンケートを実施した。学生によるアンケートの結果（回答者数9名）は、主に以下のとおりである。

- 会議参加によって、「新しい発見」や「気づき」があったとした参加者は「大いにあった」「まあまああった」総じて100%であった。
- その気づきがどのようにしてもたらされたかについては、他の参加者との交流による部分が大きく（44.4%）、意見交換の重要性を確認することができた。
- また、OAでは、気候変動問題という課題に対して、「参加者のそれぞれがさまざまな環境問題に関心を持っており、しかもそれが同じ茨木市在住の方々であることに驚いた中、一つのテーマで議論を行うという尊い時間を過ごす貴重な機会になった」などの好意的な意見を把握できた。

## 6. 考察・まとめ

「未来のまちづくりワークショップ～大阪いばらき気候市民会議」は、市民が主体的に脱炭素社会の実現に向けた行動を考え、具体的なアクションプランを策定する貴重な機会となった。

ただし、チラシの配布の規模に対して、参加者の数はかなり限定的であった。これは今回の試みが茨木市にあって初めてであったこと等も考えられるが、そもそも市民社会の側に、気候変動問題に関する問題意識の形成や意思表示へのモチベーションのばらつきがあることも考えられる。東日本での気候市民会議の発展状況を鑑みると、東西の市民社会・意見表明に関する社会的・文化的タイポロジーなどに関しても分析する必要があるかもしれない。

なお、学生は会議当日に受付などのサポートを行い、かつ各テーブルに1名参加が認められた。その他、学生のみディスカッションテーブルも設けることが認められ、ワークショップによる議論を経験することができ、教育効果を得ることができたことから、大学の地域連携という枠組みの構築を図る上ではある程度効果があったものと思われる。ただしプロジェクトの完成度を担保しつつ、さらに積極的な関与をどう促すかについては、機会があれば今後も引き続き検討したい。



（図3）学生テーブルの様子

総じて、市民アクションプランの策定を通じて、市民、地域、大学が一体となって脱炭素社会の実現に向けた具体的な行動を起こすことは引き続き期待される。今後もこのような取り組みを継続し、持続可能な未来を築くためのモデルケースとなることが重要である。

（参考文献）

三上 直之, (2022) 脱炭素社会の構築における気候市民会議の意義と課題, 地球環境, 27巻2号.



# 伝統工芸と図書館SDGs ～京焼編～

●連携先：東山区役所 京都市東山図書館 京都府立陶工高等技術専門校  
(下京区)杉本家住宅

図書館司書課程 桂 まに子

## 1. プロジェクトの目的・概要

図書館司書課程では、2022 年度に「図書館と SDGs」をテーマにした資料展示を企画・実施した経験がある。大学図書館で SDGs に関連する図書を集め、POP を作成して館内展示をし、17 個の目標への関心を呼びかけることを試みたもので、展示と連動した SDGs ワークショップも開催し、各目標についての本を紹介しながら自分たちにできることは何か話し合った。このときに得られた新たな視点は、(1) 図書館からの SDGs 関連情報の提供は世代問わず不十分である、(2) 資料の展示だけではない、体験を伴った情報サービスが図書館にあれば SDGs を知る機会を増やせるのではないか、という 2 点であった。

そこで、本プロジェクトでは、層を広げた発信および経験を共有する場作りを目的とした実践を学外で行った。プロジェクトに参加した図書館司書課程の学生（前期 3 名、後期 5 名）とは、地域の図書館が SDGs を扱う場合を想定し、地域の実情に即した問題や課題と結びつけた情報発信と共有体験を考えた。その結果、今回は SDGs 目標にもある環境への優しさや持続可能性に関係する「伝統工芸」に注目し、中でも京都の伝統工芸「京焼」に焦点を当てて図書館や地域のリソースを活かす方向でプロジェクトを進めることとした。

今年度の具体的な取り組みは、次の 2 点である。

(1) Wikipedia の執筆：地域の図書館で京焼に関する情報収集をし、京焼従事者から直接話を聞いて Wikipedia のローカル記事を執筆する。

(2) ワークショップの開催：子ども&大人向けに書かれた SDGs 関連の絵本や図書を京都女子大学図書館および京都市図書館で選定し、それらを用いて「持続可能な京焼」をテーマにしたワークショップを企画・開催する。

## 2. プロジェクト (1) Wikipedia の執筆

Wikipedia には既に「京焼」の項目がある。京焼の主な例として「清水焼」「音羽焼」「御室焼」「粟田焼」「御菩薩焼」「八坂焼」の 6 種類の名前が挙がっており、この中で既に立項されているのは「清水焼」だけであった。残りの 5 種類の焼きものについての執筆は、図書館の資料（国立国会図書館デジタルコレクション含む）を用いれば容易にできるものと予想していたのだが、記録が不十分である点と、焼きものの特徴を知るための視覚的な情報が少ない点が重なり、Wikipedia 記事の新規執筆は難航した。

図書館資料にもウェブ上にも情報が少ないことから、焼きものの専門家からも直接話を伺うことにした。本学の近隣に立地する「京都府立陶工高等技術専門校」を訪問し（7

月）、京焼全般に関するレクチャーを受け、清水焼以外の京焼には窯元が現存しないことが分かった。

情報収集が思うようにいかない中、「御室焼」「粟田口焼」「御菩薩焼（みぞろやき）」については何とか Wikipedia 記事を準備することができた。ウェブ上にまだない情報（特にローカル情報）を探し、リアル図書館やデジタルライブラリーを使って Wikipedia に記事を書き、公開するということは、「知」へのアクセス機会を提供することに繋がる。今回は不完全燃焼な部分もあったものの、執筆を担当してくれた学生たちは身をもってこれを体験した。

## 3. プロジェクト (2) 「KOMEGLA BOOK CLUB」開催

### 3.1. 学外ワークショップの企画

2022 年度に大学図書館内で実施した展示「図書館と SDGs」をふまえ、SDGs に関する情報発信は図書館外でも必要ではないか、という点に着目した。そこで、本プロジェクトでは、図書館の外（地域）に図書館の本を用いて SDGs 情報に触れられる場を作ることに挑戦した。

ワークショップの対象は小学生とした。なぜなら、小学校教育においても SDGs は登場し、学年に応じた学びを進めているからである。学校の学びとは別角度から SDGs 関連の絵本や図書を選書し、子どもたちや保護者に手に取ってもらふ場所を地域に作ることはできないか、という考えのもと、本学の学外にある「KOMEGLA キャンパス」を活用したワークショップを企画することにした。

### 3.2. KOMEGLA とは

2020 年 11 月、本学の新たな学びの拠点として、重要文化財「杉本家住宅」（京都市下京区綾小路通新町西入ル矢田町 116 番地）の旧米蔵に「京都女子大学 杉本家 KOMEGLA キャンパス」が開所した。杉本家住宅の公式 HP には「京都女子大学連携事業」のページがあり、開所式の様子や KOMEGLA を使用した活動の記録を見ることができる。

街中にある KOMEGLA キャンパスは、フィールドワークの拠点やゼミ、成果発表の展示などに活用されることが期待されている。地域に出てワークショップを企画しようとしていた本プロジェクトにとって同キャンパスの存在は有り難く、学外キャンパスを利用する初めての機会にもなった。

### 3.3. ワークショップの事前準備

ワークショップ名を「KOMEGLA BOOK CLUB : KOMEGLA で小さな図書館を開こう!」とし、開催に向けての打ち合わせ&事前準備を杉本節子氏（財団法人奈良屋記念杉本家保存会事務局長）と行った（11 月、12 月）。会場となる旧米

蔵では、杉本家住宅所有の長机や椅子を借用することができたため、外部からの持ち込みを極力控えた。

ワークショップのテーマは「京焼×SDGs」とした。KOMEGLA 内で展示する本を準備するために、学生たちは京都市立図書館や京都女子大学図書館で関連図書（絵本や図録、単行本など）を約 30 冊選定した。それらが一覧できるブックリストを作成し、リスト内の図書全てに京都市図書館の各館の所蔵状況を記載した。ワークショップ後でも気になった図書にアクセスできるように工夫した点である。

図書の展示の他に、読み聞かせやクイズ大会の時間帯を作ることにし、展示本と共に楽しむ体験型のワークショップを設計した。読み聞かせには「もったいないばあさん」シリーズ（『もったいないばあさんのてんごくとしごくのはなし』『もったいないばあさんもりへいく』）を用意し、「京焼×SDGs」をテーマにしたクイズには、今回の対象年齢である園児や小学生向けの初級編と、保護者（大人）向けの上級編の 2 種類を用意した。



### 3.4. ワークショップ当日の様子

2024 年 12 月 15 日（日）、杉本家住宅の旧米蔵にて「KOMEGLA BOOK CLUB」（11:00-16:00）を開催した。午後に読み聞かせ&クイズ大会の時間帯を 3 回設けた（13:00、14:00、15:00）。参加者の内訳は幼児 1 名、小学生 11 名、大学生 6 名、大人 16 名であった。



今回のワークショップの中で学生たちが一番力を入れているオリジナル企画「京焼×SDGs」クイズは、子どもたちが簡単なクイズと難しいクイズの両方に挑戦してくれたため、大変盛り上がった。予想通り、SDGs クイズの正解率は高かった。難問には大人の参加者もチャレンジし、会場全体で楽しめる企画となった。

### 3.5. ワークショップの成果と課題点

今回のワークショップの成果として、次の 3 点を挙げる。

- ・子どもたちが SDGs の本を初めて手に取る機会を地域

の中で作ることができた。

- ・地域の中で本と人が集うと、どのような場作りができるのか体験できた。
- ・図書やウェブ情報を用いて学生たちが作った「京焼×SDGs」クイズは KOMEGLA BOOK CLUB のオリジナルコンテンツになる。

ワークショップの課題は主に 2 点ある。1 つ目は、イベント広報の仕方である。準備段階でチラシを作成し、会場となる KOMEGLA キャンパス前で配布したり、杉本家住宅の公式 HP にも掲載いただいたりして広報に努めたが、配布先の開拓まで至らず、周知方法に苦戦した。チラシの作成と合わせて、近隣小学校や保育園、京都市下京図書館とも日頃からの連携協力関係を築けるようにしていきたい。

2 つ目の課題は、KOMEGLA 内の活用方法である。今回初めて使用したこともあり、限られたスペースを十分に使いこなせなかった。ワークショップの内容に合わせた机や椅子の配置についても企画段階から検討するようにしたい。

## 4. 今後の展開に向けて

最後に、学生が提案する KOMEGLA 利活用の一案を紹介する。(A) 杉本家住宅で開かれているイベントと連動させて関連図書を集めて KOMEGLA に並べると、訪れた人にも来てもらえるのではないか。草花に関するイベント時には植物や四季折々の風物に関する本を展示し、一般公開の期間は京都の歴史や伝統文化に関する資料を並べるなど。(B) 杉本家にちなみ、京町家をテーマに本を集めたり、クイズをしたりしてみたい。一般の方が参加できるイベントを定期的に行うことで定番化し、キャンパスの知名度が上がると集客しやすくなるのではないかな。(C) 小規模の KOMEGLA キャンパスには、「一箱ライブラリー」の手法が適する。学生が作成した箱の展示や、本の紹介、討論会などもできそう。(D) 大学での専門の学びを活かし、古典文学やくずし字を読む教室を開いてみたい。

本プロジェクトを介して本学の KOMEGLA キャンパスを利用したことは、学外キャンパス利用の可能性を考える契機となった。学生たちが提案してくれた企画内容はどれもユニークかつ現実的である。これらを参考にさらなるアイデアも出しつつ、「KOMEGLA BOOK CLUB」を継続開催していくことが次の目標である。本学の KOMEGLA キャンパスを拠点に地域連携の輪を着実に広げていきたい。



# 駅ナカアートプロジェクトー京都をアートで元気にー

●連携先：京都市交通局・企画総務部営業推進課

家政学部 生活造形学科 准教授 江口 淑子

## 1. 背景

2011 年から京都にある美術系の大学と、企業、行政の声かけからはじまった。京都女子大学は 2012 年から地下鉄五条駅で参加し、12 年目の参加になる。コロナ後、京都市の財政が厳しく、プロジェクトに京都市の予算がつかなくなり、参加を取りやめる大学もある中、連携プロジェクト補助事業のおかげで参加することが可能になり、今年は、五条駅と御池駅の 2 か所で展示を行った。10 年をこえて継続しているプロジェクトであり、駅を利用される方は楽しみにしてくださり、展示作業中、はげましの声を多くかけていただき、学生にとってやりがいのあるプロジェクトになっている。

## 2. 実施目的

①多くの観光客が訪れる国際観光都市・京都の重要な都市装置である「京都市営地下鉄」の「駅」のイメージアップを図り、地下鉄を魅力的なものとして活性化することで、活力ある京都のまちづくりに寄与すること。②“大学のまち京都”ならではの取組として、芸術系大学の学生が中心となったアート作品の展開により、世界に誇る「文化芸術都市京都」確立への一助となること。③「学・産・官」三者の連携・交流を深め、学生に対し、京都を支える人材への成長の機会を提供すること。

## 3. 主催

KYOTO 駅ナカアートプロジェクト実行委員会  
(構成：8 大学、京都市交通局、文化市民局)

## 4. 実施駅及び参加校

烏丸線	烏丸御池駅	………	京都女子大学 京都橘大学 京都美術工芸大学
烏丸線	五条駅	………	京都女子大学
烏丸線	京都駅	………	京都市立芸術大学
東西線	六地蔵駅	………	京都教育大学
東西線	栂辻駅	………	京都橘大学
東西線	東山駅	………	京都芸術大学
東西線	太秦天神川駅	………	嵯峨美術大学 嵯峨美術短期大学

## 5. 協賛企業

有限会社画箋堂、京都地下鉄整備株式会社、株式会社島津製作所、株式会社バックス画材、株式会社リーフ・パブリケーションズ、村田機械株式会社、総合資格学院、ポノス株式会社

## 6. コンセプト

五条駅：京四彩ブレンド

京都の果物や野菜が柱の中でカラフルでフレッシュなジュースにかわり、色と味が躍動します。果物や野菜がカットされてジュースになる過程を楽しく軽やかに表現しました。

御池駅：推しし 探しし 京都やし

京都の工芸品とも言える京寿司をコンセプトに、ひとりひとりお寿司をデザインしました。京都にちなんだものから、可愛いものまで たくさんのお寿司が並びます。個性あふれるお寿司の中から、あなただけの「推し」を探してみてください。

## 7. 展示期間

2024 年 12 月 9 日～ 2025 年 2 月 10 日

## 8. 京都女子大学参加学生（全員 3 年生）

五条駅：水津衣梨、谷口伊知花、山崎日茉理、山下七希

御池駅：新井理子、位田朱里、水津衣梨、谷口伊知花、辻井友里、廣田佳乃、藤村美沙、山崎日茉理、山下七希、山中彩花、和田実咲

## 9. 制作過程

【コンセプト、アイデア出し】

9/17 アイデアのイメージ出し。

9/24 すしのねたづくり、ラフ案。

10/1 五条駅、御池駅視察、採寸、チーム分けと担当エリア分け。

【意見交換会】

10/8 京都美術工芸大学にて参加校、協賛企業と意見交換会。

【データ作成】

10/22-11/14 データ作成後、プリントアウトし、展示準備。

11/27 五条駅展示

12/2 御池駅のプリントアウト、カット

12/3,4,7,8,9,10 御池駅展示

【感謝状贈呈式 & ジョイントミーティング】

12/18 京都美術工芸大学にて参加校と協賛企業で、感謝状贈呈式と各大学のプレゼン、交流会が行われた。

【撤収作業】

2/12 四条駅、御池駅展示撤収【展示作業】

11/7 五条駅清掃と、展示作業

11/8,9,10,13 五条駅展示作業。

## 10. 展示エリア

五条駅 改札内の柱 4 本と天井

御池駅 竹田方面行きのコンコース、通路

## 11. 展示の様子

【五条駅】



【御池駅】



## 12. メディア取材

12月11日御池駅で駅ナカアート8大学を代表してNHKの取材を受け、当日夕方の「京いちにち」で放送された。  
(<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kyoto/20241211/2010021497.html>) 京都新聞、YAHOO ニュースにも掲載された。

## 13. おわりに

今年は、五条駅が改修工事があったため規模を縮小して展示した。一方、多くの人を利用する御池駅では初めての展示に参加し、多くの人に喜んでいただけたと思う。毎年楽しみにしてくださる方や、海外からの旅行客の方も多く声をかけてくださった。遅くまで大学で作業をし、駅でも力をあわせて展示作業を行い、多くの方に喜んでもらった経験は、学生たちが社会に出てから、何のために働くのかということを考える貴重な経験になったと思う。学生の活動を暖かく見守ってくださる地域の方、五条駅、御池駅職員の方、京都市交通局、貴重なご意見を下さる他大学の関係者、協賛企業の方、に感謝いたします。地域連携プロジェクトとして支援していただきありがとうございました。



## セミナー、シンポジウム、 地域連携活動などを多様に展開

### 京都女子大学 リカレント教育課程シンポジウム 「リカレントで拓く未来」

本年度は、第一部の池上先生による「リカレントで拓く未来」をテーマとした基調講演を皮切りに、全体を三部構成で開催した。

本学リカレント教育課程の修了生や受講生に加え、一般市民も参加可能なシンポジウムは、本学リカレント教育課程について、より広く、そして深く知っていただく機会となった。

パネルディスカッションでは、実際に本学リカレントで学んだ修了生が登壇し、リカレントの意義や学ぶ楽しさを実感できる内容となった。

最後に、文部科学省男女共同参画共生社会学習安全課長の中園和貴氏より、「女性のキャリア形成に資することにとどまらず、昨今求められているデジタルスキルの習得なども図られており、質の高いリカレント教育プログラムを実施されている。」とのコメントが寄せられた。

開催日時：2023年12月7日（土）13時～15時

開催場所：京都女子大学 図書館交流の床ホール

#### ・第一部：基調講演

テーマ「リカレントでキャリアを拓く」

本学客員教授 池上彰

#### ・第二部：京都女子大学リカレント教育課程の報告

本学副学長、地域連携研究センター長 中山玲子

#### ・第三部：パネルディスカッション

テーマ：「リカレントで広がる・つながる」

本学客員教授 池上彰

本学副学長 地域連携研究センター長 中山玲子

本学 連携推進課 課長 小椋幹子

本学 リカレント教育課程修了生 3名



### 令和6年度 京女ラウンドテーブル

令和6年度も、京女ラウンドテーブルをオンラインで開催した。本ラウンドテーブルは、連携事業協働機関に対し、今後に向けてニーズや地域の課題の共有を図ること及び本学地域連携事業のご報告ならびに本学の教育課程（正課）の全般について意見を徴し、次年度の連携活動の改善につなげることを主な目的として開催するものである。

第一部では意見交換、第二部では、連携プロジェクトの成果報告が行われた。

#### ＜第一部＞ラウンドテーブル

●日時：2025年2月21日（金）10時～11時

●開催方法：zoom 接続（オンライン方式）

●アジェンダ：

- ①令和6年度京都女子大学地域連携事業の報告
- ②京都女子大学（全学部・研究科）の教育課程について
- ③防災セミナーの実施報告

#### ＜第二部＞プロジェクト報告会

●日時：2025年2月21日（金）13時～15時35分

●開催方法：ハイブリッド方式

●開催趣旨

本学で実施したプロジェクトの成果報告会を実施し、取り組みを地域や社会一般へ還元するとともに、これを機に、多くの教職員・学生が、連携活動や社会の課題解決を目指す活動に参加することで、大学の更なる活性化を目指す。

●プロジェクト名：

1. 京都刑務所との木育による造形プロジェクト
2. 児童養護施設における支援活動ー NPO 団体と連携して
3. 痴漢撲滅ポスター作成
4. 西野山団地居場所づくり支援
5. 茨木市気候市民会議
6. 伝統工芸と図書館 SDG s～京焼編～
7. 駅ナカアートプロジェクト2025

連携機関や参加者からの意見が以下の通り寄せられた。

- ・昨年度よりも地域との連携が進んでいることが分かった。
- ・学生には今後も地域での生きた課題に取り組み、学びの幅を広げてほしい。
- ・多岐に渡る活動が充実していて素晴らしかった。
- ・関係機関だけでなく広く一般の方にも聞いてほしい内容である。

## 令和6年度 防災連続セミナー

京都府および京都市との連携に基づき、男女共同参画から防災を考えるきっかけとして、防災シリーズ連続セミナー（全2回）を開催した。

第1回 6月30日(月)「男女共同参画の視点で防災を考える」京都市男女共同参画センター ウィングス京都 久保 智里 氏<対面受講>

第2回 7月1日(火)～8月1日(金)「自然災害と京都市の災害対策」京都市行財政局防災危機管理室<録画視聴>



参加者からは、「実務に活かせる内容なので自治会の防災活動に役立てたい。」「防災へのジェンダー視点の重要性がよくわかった。」等の感想が聞かれた。

## 理系女子（リケジョ）のロールモデルセミナー

進路指導の教員や女子中高生、その保護者を対象に、実際に連携企業で活躍する「リケジョ」のロールモデルに仕事の内容やライフキャリア等について講演していただき、質疑もできるオンラインセミナーを開催した。

日時：令和6年12月25日(水) 13時～15時(オンライン/zoom)

### <第一部>

13時～13時45分(講演)「未来を拓く理系」

御興 絢氏 (NTT 西日本 ビジネス営業本部エンタープライズビジネス営業部 文教営業部)

13時45分～14時30分 質問コーナー

### <第二部>

14時30分～15時 京都女子大学データサイエンス学部の紹介

参加者からは、「イメージしていたよりもキャリアの幅が広がった。」「理系のメリットがわかった。進路指導の参考にしたい。」等の感想が寄せられた。



## 祇園北地区4町内、地蔵盆行燈絵の製作

地域連携研究センターは、2016年の設立当初より、祇園新橋元吉町にて祇園新橋景観づくり協議会の立ち上げに携わってきた。その連携活動の一環として、2018年より祇園北地区4町内の地蔵盆行燈絵製作を行い今年で7年目を迎える。この行燈絵の製作は、発達教育学部 矢野ゼミの学生が毎年担当し、地域と連携を深めている。

今年は、7月9日(火)～7月23日(火)までの期間、元吉町を中心に各店舗や家屋に行燈の灯りがともされた。

地域からは、京女の学生さんが描いてくれる作品としてすっかりお馴染みとなり、若い感性で描かれる作品を楽しみにされている方も年々増えているようだ。

今年作品テーマは「妖怪」とされ、多彩で個性豊かな作品が、お盆の風情ある祇園新橋の街並みをやさしく灯し、地域住民や観光客の目を楽しませた。





# 京都女子大学が提供する学びの場 (公開講座/生涯学習講座/リカレント教育課程)

京都女子大学では、大学の構成学部の専門性に応じた講座を広く提供するため、一般市民を対象とした以下3つの「学びの場」を設けている。

## ①公開講座（対象：20代～男女 無料）

京都女子大学では、各学部学科の学問領域や附属施設（研究所）の研究領域にもとづいた講座や学外のゲストスピーカーを招いた学術的な「公開講座」を本学で実施。2024年度は14講座を開講。

## ②生涯学習講座（対象：20代～男女 有料）

本学の教育・研究成果を社会に還元し、広く生涯学習の機会を提供するため、多様なテーマの連続講座「生涯学習講座」（有料・事前申込制）を開講。2024年度は10講座を開講。

## ③リカレント教育課程

2024年度は社会人の学び直しの場合として、以下3つのコースで講座を開講した。

### ・ブラッシュアップコース

（対象：20代～女性のみ 有料 98,000円）

### ・女性のための実践・リーダー育成コース

（対象：20代～女性のみ 有料 120,000円）

### ・KNFSM ウィミズカレッジマネジメント入門コース

（対象：20代～女性のみ 2024年度に限り管理料10,000円を徴収とする）

## 2024年度 学部 / 学科主催の公開講座

講座名	講題	開催	講師	開講形態
＜前期＞				
食物栄養学科公開講座 乳幼児期の食生活を考える	母と子をつなぐ授乳	7/20(土)	本学家政学部 教授 廣瀬 潤子	対面
	生涯にわたる心身の健康は子ども期に作られる ―ヒトの育ちを科学的視点で理解する―		京都大学大学院 教育学研究科 教授 明和 政子	
＜後期＞				
人文学会公開講座 ナポレオン時代を生きた作家 ―スタンダールにみる 19 世紀フランスの文学と社会―	スタンダールのナポレオン ―理想化と現実―	10/16(水)	本学文学部 准教授 小林 亜美	対面
	スタンダールにおける現世的野心とナポレオン		関西大学 名誉教授 柏木 治	
法学科公開講座 新しい社会を切りひらくために ―声をあげて見えてきた世界―	刑法改正の事例から ―性暴力被害者支援の歩み―	10/19(土)	本学法学部 教授 手嶋 昭子	対面
	勇気をもって声をあげる		STeam Research & Consulting 株式会社 コンサルタント 五ノ井 里奈	
	当事者が声をあげることができる社会とは		本学法学部 教授 市川 ひろみ	
	質疑応答・パネルディスカッション		STeam Research & Consulting 株式会社 コンサルタント 五ノ井 里奈 法学科教員 本学学生	
データサイエンス学科 公開講座 データサイエンスの社会での 活用（生成 AI および医療分 野への応用）	医療経済学の課題	11/9(土)	本学 データサイエンス学部 教授 安川 文朗	対面
	生成 AI の仕組みと進化		本学 データサイエンス学部 教授 市瀬 夏洋	
こころの相談室公開講座 子どもの強みをみつけ、伸ば す方法―教育に生かすポジ ティブ心理学―	子どもの強みをみつけ、伸ばす方法	11/9(土)	本学 心理共生学部 講師 阿部 望	対面

## 2024 年度 学部 / 学科主催の公開講座＜後期＞つづき

講座名	講題	開催	講師	開講形態
生活デザイン研究所 公開講座 養源院と歴史と建築	養源院の建築	11/9(土)	本学 研究教授 斎藤 英俊	対面
	養源院見学 堂内障壁画等解説 伽藍・建築等解説		養源院 副住職 吉水 行友 本学家政学部 教授 鶴岡 典慶	
国文学科公開講座	藤原俊成・定家の「あしたづ」の和歌を読む	11/14(木)	本学文学部 教授 小山 順子	対面
	日本語史研究と訓点資料		東京大学 名誉教授 月本 雅幸	
史学科公開講座	近世公家社会における一門一族	11/20(水)	本学文学部 准教授 佐竹 朋子	対面
	日中戦争と日中「親善」の諸相 —日本占領下中国のメディアを読み解く—		本学文学部 准教授 菊池 俊介	
英語文化コミュニケーション 学科公開講座	スパイ、吸血鬼、宇宙人 —19 世紀末イギリスの人々が恐れたもの—	11/28(木)	本学文学部 教授 鴨川 啓信	対面
	What Cross Cultural Dimensions Can Tell Us About the Difference Between English and Japanese Culutures		本学文学部 准教授 キャメロン・ ロムニー	
教育学科公開講座 インクルーシブ教育システム の構築と表現活動の可能性 —真のインクルーシブ教育を 目指して—	インクルーシブ教育システムの現状	2025 1/25(土)	本学発達教育学部 教授 滝川 国芳	対面
	ホワイトハンドコーラスの活動とその意義		一般社団法人 El Sistema Connect 代表理事 コロン えりか	
	手話と手歌そして、ホワイトハンドコーラスの活動		ホワイトハンドコーラス 京都チーム講師 岡本 英樹 馬場 昌子 中坂 文香	

## 公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会連携事業京町家特別公開講座

講座名	講題	開催	講師	開講形態
杉本家10月公開講座	京商家・杉本家の精進料理と食のならわし	10/24(火)	公益財団法人 奈良屋記念 杉本家保存会 事務局長 杉本 節子	対面
	仏教の基本的発想—私たちの悩みの原因—		本学発達教育学部 教授 黒田 義道	
杉本家11月公開講座	古文書が伝える京商家のお正月準備	11/28(木)	公益財団法人 奈良屋記念杉本家保存会 学芸部長 杉本 歌子	対面
	因幡業師になりました女		本学文学部 教授 中前 正志	
杉本家2月公開講座	古文書からわかる商家の春の行事とくらし	2/10(月)	公益財団法人 奈良屋記念杉本家保存会 学芸部長 杉本 歌子	対面
	無心のさとり 福島慶道老師の思い出		京都産業大学日本文化研究所 客員研究員 吉澤 健吉	

2024 年度 その他シリーズでの講座一覧

講座名	各回の講題	開催	講師	開講形態
防災連続セミナー	第1回 自然災害と京都市の災害対策	7/13(土) ～8/3(土)	京都市行財政局 防災機器管理室	動画配信
	第2回 男女共同参画の視点で防災を考える	7/20(土)	公益財団法人京都市 男女共同参画推進協会 (京都市男女共同参画 センター ウィングス京都) 久保 智里	対面

参加者の声

2024 年度 前期 学部 / 学科主催の公開講座
食物栄養学科公開講座 乳幼児期の食生活を考える
・興味深い内容で大変勉強になった。子どもを見守って下さることで学ぶことができた。 ・先生の本気度に触れ涙が出るほど感動し、明日からの仕事に活かしていきたい。 ・高校3年生の娘と参加し、乳幼児期の発達の大切さを学び、大変有意義な時間となった。
2024 年度 後期 学部 / 学科主催の公開講座
人文学会公開講座 ナポレオン時代を生きた作家 ―スタンダールにみる19世紀フランスの文学と社会―
・哲学として扱われる人の考え方が、どのように生まれたのか歴史を辿って知る事ができ面白かった。 ・考え方の方針・テーマを見出すことがとても参考になった。文学作品をもっと読もう!と思った。
法学科公開講座 新しい社会を切りひらくために―声をあげて見えてきた世界―
・当事者の話を聞いて、被害者にかかる負担の大きさを初めて知った。 ・「誰よりも幸せに生きる」という言葉が大変心に残った。
データサイエンス学科 公開講座 データサイエンスの社会での活用(生成AIおよび医療分野への応用)
・医療経済学に大変興味を持った。 ・生成AIの仕組みの入口を理解できたと感じたので、学習していきたい。
こころの相談室公開講座 子どもの強みをみつけ、伸ばす方法―教育に生かすポジティブ心理学―
・子どもの強みを意識的に見ていくことが大切だと気が付いた。グループワークも良かった。 ・先生の話が具体的に分かりやすい言葉で理解しやすかった。ワークに参加して時間が経つにつれ、強みのおかげで元気になっている自分もいた。
生活デザイン研究所公開講座 養源院と歴史と建築
・興味深い講座と現地の見学により、理解が深まった。 ・深く知ることができ、大変充実した時間だった。

国文学科公開講座
・和歌について系統立てて解説いただき非常に面白く勉強になった。 ・親が子を、子孫を思う心は、時代が変わっても変わらず同じなのだと感じた。
史学科公開講座
・他ではなかなか聞けない講座で大変面白く満足。 ・もともと興味のある内容であったが、講座を受講しさらに興味が深まった。
英語文化コミュニケーション学科公開講座
・先生の優しい言葉で話して下さり、学校時代に戻ったようで楽しかった。もっと勉強したいと思った。 ・無知による恐怖は多くの頃に当てはまると気が付いた。勉強になった。
教育学科公開講座 インクルーシブ教育システムの構築と表現活動の可能性 ―真のインクルーシブ教育を目指して―
・芸術文化の持つ力についても再認識させられた。 ・子どもさん達の表現力、明るくポジティブなエネルギーに感動した。
2024 年 10 月・11 月・2025 年 2 月 全 3 回(杉本家公開講座)
・普段、来ることができない素敵な場所で二つの講座を興味深く拝聴することができた。 ・杉本家に受け継がれる日々の暮らしぶりが理解でき楽しかった。 ・住宅内の繊細な家の造りが素晴らしく感銘を受けた。
防災連続セミナー
・ジェンダー、多様性の視点を持ち、当事者の意見を聞き、意見を交わすことの大切さを学んだ。 ・避難所運営＝生活の場の保証で、ハード面に関心が行きがちですが、実際はソフト面の問題が非常に多いと感じ、とても大切な視点を提供してくださいました。 ・女性の参画を進めないと声なき声が埋もれていくことに大変納得した。

## 2024 年度 生涯学習講座＜前期＞

講座名	講題	開催	講師	開講形態
＜前期 6月～8月開催＞				
A いつまでも、いくつになっても よい姿勢	①良い座り姿勢・立ち姿勢とは	6/25(火)	本学 地域連携研究センター 客員研究員 原田 奈名子	対面
	②姿勢がいいと呼吸もいい	7/2(火)		
	③良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法	7/9(火)		
B 平安宮廷の才媛と 軍事貴族たち	①清少納言と橘則光	6/27(木)	本学宗教・文化研究所 客員研究員 本学名誉教授 野口 実	対面
	②紫式部と平維将	7/4(木)		
	③和泉式部と藤原保昌	7/11(木)		
C 京都画壇の近代化 竹内栖鳳作品制作の核心 (II)	①「刺繍絵画の世界」展(2022年8月、京都高島屋 で開催)の舞台裏	7/17(水)	本学名誉教授 廣田 孝	対面
	②展示作品 下絵・岸竹堂の刺繍作品に注目	7/24(水)		
	③竹内栖鳳の日本画作品「観花」への架け橋	7/31(水)		
D 「安心感の輪」 子育てプログラム —基礎講座—	①「安心感の輪」子育てプログラムへようこそ	9/20(金)	本学発達教育学部 教授 古池 若葉	対面
	②「安心感の輪」をめぐる子どもの欲求を知ろう	9/27(金)		
	③「安心感の輪」に寄り添うには?	10/4(金)		
E 親子でつくる木工作 —木育のすすめ—	①木について知ろう —木のおもちゃをデザインする—	8/2(金)	本学発達教育学部 教授 矢野 真	対面
	②具体的な道具を使ってつくりよう			
	③接着や仕上げを考えてつくりよう			
F 玉ねぎ染トートバック を作ろう!	①生地染色(模様付け)	8/3(土)	本学家政学部 教授 青木 美保子 本学家政学部 教授 榎本 雅穂 本学家政学部 准教授 渡邊 敬子	対面
	②生地の整理、縫製			
	③縫製・仕上げ			



C: 京都画壇の近代化 竹内栖鳳作品政策の核心 (II)



A: いつまでも、いくつになっても よい姿勢



## 2024 年度 生涯学習講座＜後期＞

講座名	講題	開催	講師	開講形態
＜後期 11月～2月開催＞				
A いつまでも、いくつになっても よい姿勢	①良い座り姿勢・立ち姿勢とは	11/6(水)	本学 地域連携研究センター 客員研究員 原田 奈名子	対面
	②姿勢がいいと呼吸もいい	11/13(水)		
	③良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法	11/20(水)		
B インド思想へのいざない	①インド思想の夜明け	2/5(水)	本学 現代社会学部 教授 藤井 隆道	対面
	②ヒンドゥー教の興隆	2/12(水)		
	③哲学体系の発達	2/19(水)		
C 歴史学からみたイスラーム	①イスラームの興り	2/7(金)	本学文学部 教授 谷口 淳一	対面
	②イスラーム圏の拡大	2/14(金)		
	③イスラームの近現代	2/21(金)		
D 清水寺に参詣する 平家の武将たち	①『源平盛衰記』の清盛	2/8(土)	本学文学部 教授 中前 正志	対面
	②謡曲『熊野』の宗盛	2/15(土)		
	③舞の本『景清』の景清	2/22(土)		



A: いつまでも、いくつになっても よい姿勢



前期 B: 平安宮廷の才媛と軍事貴族たち



F: 玉ねぎ染トートバックを作ろう!



## 参加者の声

2024 年前期 生涯学習講座
<b>A: いつまでも、いくつになっても よい姿勢</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座を受けて、身体のしくみや動き、骨と筋肉の動きをくわしく説明して頂き、自分の姿勢を理解できるようになった。</li> <li>・とても興味深く引き込まれるように拝聴しました。事前にもっと勉強しておけばと少し悔やんでいます。</li> <li>・先生のパワーを毎回たっぷり浴び、梅雨時のしんどさが吹き飛んだ。</li> </ul>
<b>B: 平安宮廷の才媛と軍事貴族たち</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・久しぶりに母校で講義を受けて、学校に来るという楽しみを思い出すことができた。</li> <li>・新視点での話で新たな発見があり大変有意義な3日間だった。</li> </ul>
<b>C: 京都画壇の近代化 竹内栖鳳の作品制作の核心(II)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉すら知らなかった「刺繍絵画」について、知ることができ大変面白く興味を持って受講することができた。</li> </ul>
<b>D: 「安心感の輪」子育てプログラム ー基礎講座ー</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のみなさんとのブレイクアウトが楽しく新たな考え方ができた。これから自身で学びを深めたい。</li> <li>・今後の子育てに活かせる内容を学ぶことがで、自身が日々悩み、選択し、葛藤するという今の状況を受け入れることができ、気持ちも楽になった。</li> </ul>
<b>E: 親子でつくる木工工作 ー木育のすすめー</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと一緒に体験できて、とても楽しい時間だった。子どもと話しながら向き合っていくうちに子どもの考えている事、発想に気づくことができ、よい経験となりました。</li> <li>・子どもの自由な発想を大事にされていて、色々なオーダーにこたえているのがすごい! 道具を最大限に使用する為の工夫もされていてさすがが大学だと思いました。</li> </ul>
<b>F: 玉ねぎ染トートバックを作ろう!</b>
<p>【子】初めてのミシンで緊張したけど、おねえさんのおかげで自分でした! 染めるのもステキな柄ができあがって大満足です。たまねぎからトートバックができておもしろかった!</p> <p>【親】こどものとても良い笑顔が見ることができ、学生さんのサポートの元、染色バックを作成し大変よい経験になった。家ではなかなか出来ない体験で子どもだけでなく、親の私にとっても学びの多い時間となりました。</p> <p>【親】体験だけでなく「大学」という場所へ訪れ、学生の方との関わりを持てた事も娘にとって貴重な大きな経験となった。</p>

2023 年後期 生涯学習講座
<b>A: いつまでも、いくつになっても よい姿勢</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生のお話や実技がとても楽しく、受講生も身体を動かし、心身ともにリフレッシュして受講できた。</li> <li>・パワフルな先生から、元気をもらい、明るい気持ちで帰宅し、全3回毎週とても楽しみだった。</li> </ul>
<b>B: インド思想へのいざない</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インド思想が仏教にどのように影響したのかという視点で受講しましたが、インド思想・宗教・哲学の奥深さに心惹かれ大変、有意義で楽しい時間を過ごすことができた。</li> <li>・インド思想の広さ・深さを感じる内容の講義で、視野が広がった感じがしている。</li> </ul>
<b>C: 歴史学からみたイスラーム</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の講座で教えて下さった本を読み、興味と理解がさらに深まりました。</li> <li>・長年、疑問に思っていた事を質問し、回答を得ることができ受講して良かった。</li> </ul>
<b>D: 清水寺に参詣する平家の武将たち</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料や講義内容も大変興味深く、3回とも大変よかったです。</li> <li>・講座は大変分かりやすく、質も高く来年も受講したいと思いました。</li> </ul>

## E: 親子でつくる木工工作 ー木育のすすめー



# 「いつまでも いくつになっても よい姿勢」

地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子

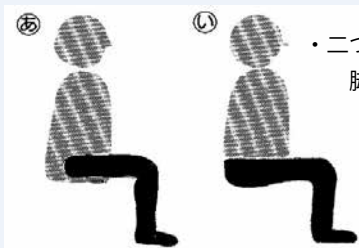
## 1. マインドセット：「〇〇たい」と「〇〇いる」

講座初回時にお聞きます。この3回の講座が終わったときの姿を思い浮かべて書いてください。

すると多くの方が、「少しでも良い姿勢になりたい」とか、「良い姿勢の作り方を学びたい」などと書きます。文末が「〇〇たい」です。「今よりも良い姿勢になっている」や、「良い姿勢の作り方を学んでいる」と記述する方はいません。その記述は何を語るでしょうか？前者は希望を語り、後者はなっている姿を描写しています。この差は現実の姿に反映します。前者は希望ですから希望通りにはならないを前提としています。だからならない可能性が高いのです。どちらの方が毎回の講座後の自主練習に励むでしょうか？もちろん後者です。「こうなる」というお気持ちが、「だからこう努力する」につながります。

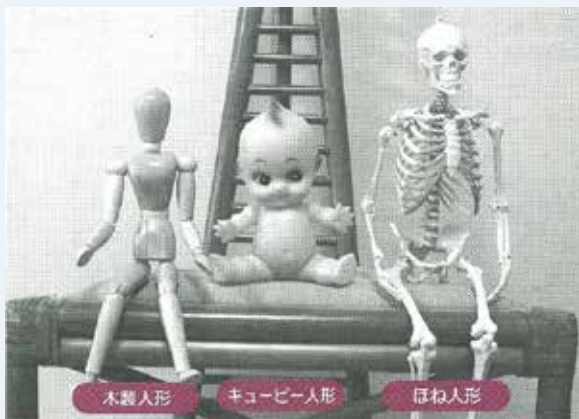
例えば BMI が 30 の方が、洋服も限られるし、医者にも指摘されているから、「痩せたい」と書いたとしましょう。

☆椅子に座っている状態を表す下の絵のうち、あなた自身が座っているイメージに近いのはどちらですか？



・二つの図の違いはどこ？  
脚と尻の位置を見て！

- 気づいたかな？ -  
脚が尻の前に？  
脚が尻の一部に？



☆あなたと同じつくりの体は骨人形。木製人形とキューピー人形ではどちらが骨人形と同じ体のつくりでしょうか？

一方、「痩せる」と書いた時との差はどうでしょう。この例えはわかりやすいでしょう。後者は決意です。だから実現可能です。

2回目以降も講座に来られたれた時の姿を書いて頂き、文末が「〇〇たい」になっていないか、と考え方についてお話しします。

姿勢の改善には地味な努力が求められます。何年もかかってその姿勢になったのですから、薬を一服飲むことで症状が霧散するようなわけにはいきません。だからこそ、ありたい姿を、「〇〇になっている」と描くことが重要だと考えます。未来を意志でつくってゆくのです。

## 2. 知識と意識：正しい知識が姿勢改善には必須

左図は配布資料に掲載した質問と図です（イラストも原田が描き、写真も原田撮影です）。

⑥は「脚が尻の前に」です。写真の骨人形は、ジョーンズホプキンス大学医学部が作った外国人男性の骨格を身長約60cmに縮小した精巧なものです。

接地しているのは脚ではなく骨盤（寛骨＝腸骨＋恥骨＋座骨と仙骨、尾骨からなる）の一部である座骨であることがわかります。下の写真の左端の木製人形は骨盤の下に脚があります。つまりイラスト⑥と同様です。受講者のほとんどがキューピー人形より木製人形を選びます。キューピー人形を選んだ方に理由を問うても、「なんとなく」であり、明確な理由をお持ちの方はほとんどいませんでした。木製人形には幾つかの解剖学的な間違いが見受けられます。まず

### ①股関節位置です

→ 正しくは、「脚が尻の前」で、尻を挟むように着き、股関節は接地していない

### ②胴体の関節が俗称ウエストのみ

→ 正しくは、頸椎 7、胸椎 12、腰椎 5、計 24 の椎骨の間と仙骨、尾骨間もすべて関節です。 \*他は省略

この認識の違いが猫背や巻き肩の要因の一つです。立ち姿勢から椅子に座るとき、その逆もこの誤った認識に基づいて動きます。だから、座ろうとして尻を後ろに引きながら背を丸める方が多いのです。

## 3. 発想の転換：

- ・「座る」は低くなること―「立つ」は高くなること、
- ・階段の昇降も「歩く」の延長



### 3-1 「座る」は低くなること―「立つ」は高くなること

座ると背は低くなります。立ち姿勢から低くなるためには、関節を曲げなければなりません。どこが屈曲しやすいでしょうか？そうです、膝です。膝が曲がると必然的に股関節も足関節も屈曲します（下肢主要3関節）。

膝を曲げると膝が前に出ます。それ以上に前に出そうとすると、股関節から胴体をやや前傾しなければなりません。この段階で、膝をさらに前に出す（つまり深く曲げる）には前傾を伴いますが、多くの方が前傾して膝を前に出す代わりに、膝位置をそのままにしてお尻を後ろに突き出して、尻を座面につけようとします。

そこで以下のようなチェックシートにお応えいただき、今の認識に気づきを促します。

#### ―座るとき―

- ☆1. 尻を椅子に近づけようと、尻から動いていませんか？
- ☆2. 前を見たまま座ろうとしていませんか？
- ☆3. 太もものにたくさん力が入っていませんか？
- ☆4. 膝間の距離が変化して（近づいて）いませんか？

#### ―立ち上がるとき―

- ☆1. 体全部を、真上に伸ばそうとしていませんか？
  - ☆2. 前を見たまま立とうとしていませんか？
  - ☆3. 太もものにたくさん力が入っていませんか？
  - ☆4. 膝間の距離が変化して（近づいて）いませんか？
- すべて「いいえ」が望ましいのです。

上述した星☆の一つ一つが「いいえ」になるよう動きましょう。膝を前に出すために股関節から前傾をし続けることが肝要です。そのためには構造と位置を正確に理解することが求められます。つまり股関節の明確な位置認識と、球関節である構造への理解、加えて脚が動くと同時に骨盤が大腿骨頭の周りも回っていくということを想像して動きましょう。毎日の洋式トイレ利用、書き物や食事等のための座ったり・立ったりの時に「膝を前に出し続ける」ことができれば、姿勢の改善には、あるいは猫背予防には非常に効果が高いのです。

このようにすると目線は自ずと斜め下に移動してきますし、太ももの過度な緊張は不要になります。

立つときもしかり、真上に伸びるのではなく、まず、体重移動して、座面にある体重を床にある足裏にうつします。つまり体重が移りきるまで股関節から胴体を前傾をします。完全に移ったら、あとは膝を伸ばすだけです。だから、当然目線は、前から斜め下に移動して、膝が伸びるにしたがって前になります。

### 3-2 階段の昇降も「歩く」の延長

「階段を上る」と思ったら、「脚を持ち上げる」となってしまうがちです。いいえ、持ち上げる必要はありません。階段に脚をかけたら、その足の膝を前に出し続けると後ろ脚の踵は自ずと上がってきます。歩くのと同じ動きなのです。ただ、平地を歩くより、さらに「膝を前に出します」。そのために「股関節から胴体を前傾し続けること」が必要になります。

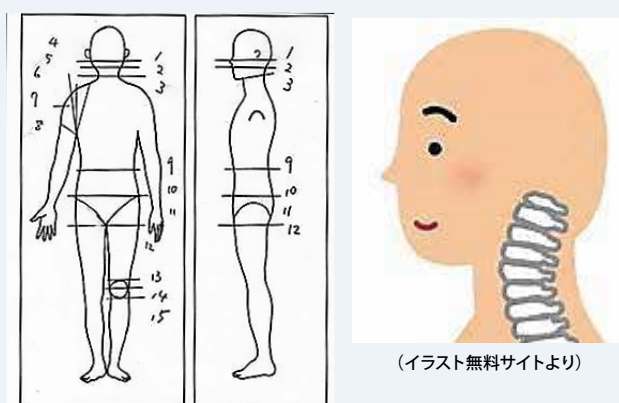
階段を見たいのは当然です。その際、どのような姿勢で見るかです。背骨を丸めて下を見てはいけません。首だけ下を向けて、胸椎や腰椎は立っているときの姿勢を保ちます。ここでも正しい知識が問われます。下図の首と頭の境目は1・2・3のどこでしょうか（講座の配布資料より）？

1：耳のすぐ下 2：口のライン 3：あごのライン

毎回、正解者はほぼいらっしゃいません。皆さんあごの骨が背骨には着いていないという知識が曖昧です。顎を動かさずに口を開けていただきます。すると、口を開けられない方も多くいらっしゃいます。後頭部の耳の穴のを結んだあたりに関節があることに気づきを促します。環椎後頭関節の位置認識も猫背予防、姿勢改善にとって役立つ知識です。

**姿勢改善、猫背予防に正しい知識が必須です！**

ちなみに答えは1です。



（イラスト無料サイトより）



骨盤と背骨の骨格モデルを熱心に見入る方々

# リカレント教育課程

## 2024 年度 リカレント教育課程概要

### 2024年度も、大学独自プログラム 2 コースと 委託事業 1 コースの、計 3 コースを開設。

大学独自プログラムは、7 年目を迎える「ブラッシュアップコース」と、好評を得て昨年度より独自プログラムとした「女性のための実践・リーダー育成コース」の 2 コースを開設した。更に、令和 6 年度文部科学省「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画事業」の委託を受け、「マネジメント入門コース」1 コースが昨年と同様に加わった。

これら 3 つのコースから、受講希望者が学ぶ目的に応じて選択できる体制を整えた。

### 1. コース別概要

	ブラッシュアップ コース	女性のための 実践・リーダー 育成コース	マネジメント入門 コース
受講時間数	120 時間 大学独自プログラム	60 時間履 大学独自プログラム	60 時間 令和 6 年度文部科学 省委託事業
メインターゲット	・キャリアブランクのある女性 ・育休取得中など休暇中の女性 ・パートタイマーなど平日に学習が可能で、ブラッシュアップしたい女性	・リーダー候補の女性（ポテンシャル層含む） ・管理職に就く女性	・企業や NPO 法人など組織で、リーダー的な立場や管理職を目指す女性（ポテンシャル層含む）
コースの概要	・現代のビジネスに必要な基礎的な PC スキルやプレゼンテーション力、マーケティング、分析力等を身に付ける。 ・これまでのキャリアを振り返り、今後のキャリアビジョンを立てる。	・リーダー層（ポテンシャル層）に必要なとされるマネジメントスキルを身に付ける。 ・SDG's で求められる「サーバントリーダーシップ」を育成する。	・組織で必要とされるマネジメントの基礎的な知識とスキルやジェンダー視点を身に付ける。 ・キャリアに関する自己効力感を高め、キャリアアップへの挑戦意欲を高める。



▲グループワーク 座学の講義以外にも様々な取り組みが行われた。

### 2. 実施スケジュール

日時	2023 年度主な活動実績	実施対象コース ※女性のための実践・ リーダー・育成コース ＝女性リーダーコース と表記
6 月 6 日	リカレント教育課程説明会 池上彰が語る「リカレント教育と女性 リーダー育成」	全コース共通
6 月 10 日 ～ 8 月 2 日	リカレント個別相談会（ZOOM）	全コース共通
6 月 10 日 ～ 8 月 26 日	リカレント教育課程 出願期間	ブラッシュアップ・ 女性リーダー コース
6 月 20 日	KNFSM ウィミズカレッジマネジメ ント入門コース採択	マネジメント 入門コース
7 月 1 日 ～ 8 月 26 日	リカレント教育課程 出願期間	全コース共通
7 月 3 日	リカレントキャンパスツアー	ブラッシュアップ コース
7 月 12 日	リカレント・オンラインセミナー	
7 月 13 日	リカレント個別説明会（対面：滋賀大 学大津サテライトプラザ）	全コース共通
7 月 17 日	リカレントキャンパスツアー	ブラッシュアップ コース
7 月 19 日	リビング掲載（豊中・吹田・箕面・東 京・むさしの・多摩）	マネジメント 入門コース
7 月 20 日	日本経済新聞へ案内掲載	女性リーダー コース
7 月 27 日	リビング掲載（京都・福岡）	マネジメント 入門コース
7 月 31 日	リカレントキャンパスツアー	全コース共通
8 月 1 日	リカレントシラバス公開	全コース共通
8 月 9 日	リビング掲載（名古屋中央・北・南・東山の手）	マネジメント 入門コース
9 月 6 日 7 日・9 日	リカレント選考面接	全コース共通
9 月 19 日	第 1 回文科省リカレントプログラム企 画委員会	マネジメント 入門コース
9 月 20 日	リカレント合格通知発送	全コース共通
9 月 24 日	リカレントオリエンテーション（オン デマンド配信開始）	全コース共通
9 月 30 日	リカレント入校式・授業開始	ブラッシュアップ コース
10 月 8 日 ～ 9 日	コーディネーターによるインテーク面 談	ブラッシュアップ コース
10 月 12 日	リカレント入校式・授業開始	女性リーダー・ マネジメント入 門コース
10 月 22 日	第 2 回文科省リカレントプログラム企 画委員会	マネジメント 入門コース
11 月 1 日	「職場見学～マネジメント入門」 Kaizen（横浜）・NTT 西日本（大阪）・ ComeLuck（福岡 11 月 2 日）	マネジメント 入門コース

11月5日 ～21日	第1回キャリアカウンセリング	マネジメント 入門コース
11月12日	第1回キャリアカウンセリング	ブラッシュアップ コース
11月16日	文科省から授業視察・受講生の意見交換会	マネジメント 入門コース
12月7日	池上彰氏リカレントシンポジウム「リカレントで拓く未来」(ハイブリッド)	全コース共通
	リカレント受講生・修了生交流会	全コース共通
	英語で茶道「リーダーに求められるリベラルアーツとしての茶道」	女性リーダー コース
12月16日	リカレント修了生交流会	ブラッシュアップ コース
2月1日	成果報告会へ向けてのオリエンテーション	マネジメント 入門コース
2月3日	ワークアカデミー「就職説明会」	ブラッシュアップ コース
2月3日 ～20日	第2回キャリアカウンセリング	マネジメント 入門コース
2月10日	成果報告会リハーサル	ブラッシュアップ コース
2月8日 ～15日	成果報告会へ向けての個別相談会	マネジメント 入門コース
2月17日	成果報告会・修了式	ブラッシュアップ コース
2月22日	成果報告会・修了式	マネジメント 入門コース
2月10日・ 16日・17日	第2回キャリアカウンセリング	マネジメント 入門コース
2月16日～ 2月18日	評価部会(メール会議)	マネジメント 入門コース
3月1日	リモート意見交換会	マネジメント 入門コース
3月31日	成果報告会	女性リーダー コース
3月5日	第3回文科省リカレントプログラム企画委員会	マネジメント 入門コース
3月22日	リカレント修了式	女性リーダー コース

### 3. 2024年度データ

#### ●コース別定員・受講者数・修了者数

	ブラッシュアップ コース	女性のための 実践・リーダー 育成コース	マネジメント 入門コース
定員	20名	20名	25名
志願者数	7名	20名	39名
受講者数	7名	20名	28名
修了者数	7名 (修了率 100%)	20名 (修了率 100%)	27名 (修了率 96.4%)

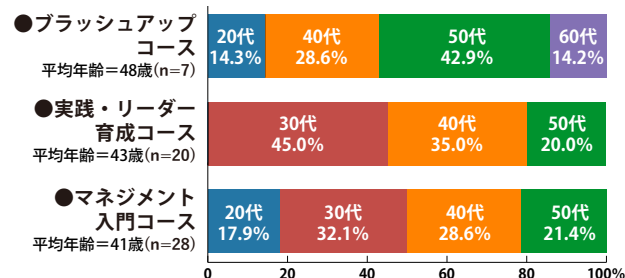
\*マネジメント入門コースでは、優秀かつ合格の同点者が出たために、受講者数を定員より3名増やした。また、講座途中に、昇格、転勤のため1名が受講時間が取れずリタイアとなった。

#### ◆受講生の属性

##### ●年代

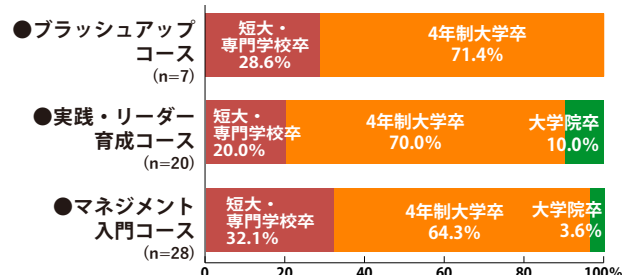
20代～60代まで幅広い年代が受講した。

入門コースという特性から、「マネジメント入門コース」では、20代の割合も高くなった。



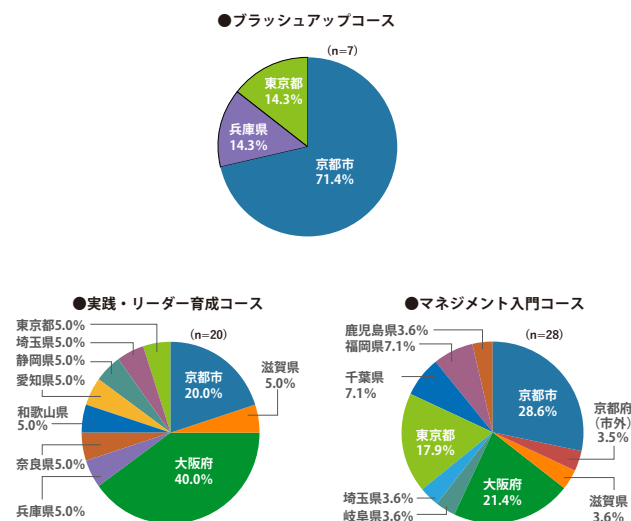
##### ●学歴

4年制大学卒業者の割合が、今年も過半数以上を占めた。



##### ●居住地

通学主体で学ぶコースでも、関西圏以外からの受講生がみられた。

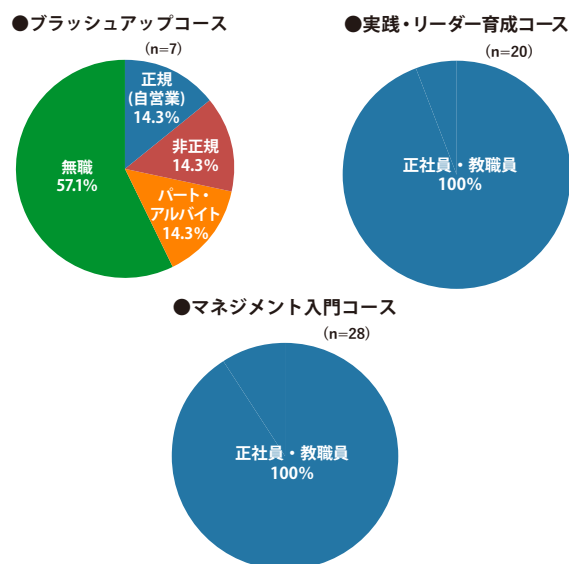




# リカレント教育課程

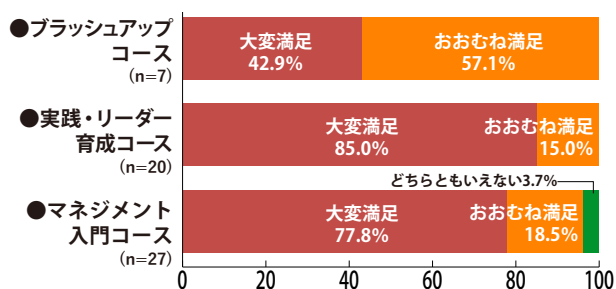
## ●入学時の雇用形態

ブラッシュアップコース以外では、正社員の受講生が100%を占めた。ブラッシュアップコースにおいても、有職者の割合が、4割を上回っていた。

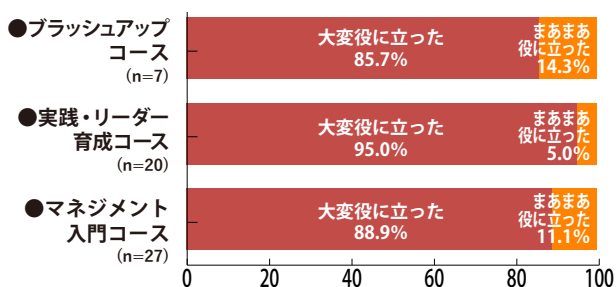


## ◆講座への評価

・講座への満足度「講座全体の内容に満足できたか。」  
受講生のほぼ100%が講座に満足していると回答し、高い評価を得る結果となった。



・キャリアへの有用性「講座が自身のキャリアに役立ったか。」  
100%の受講生が役に立ったと回答した。



## 4. 2024 年度コースの特徴と成果

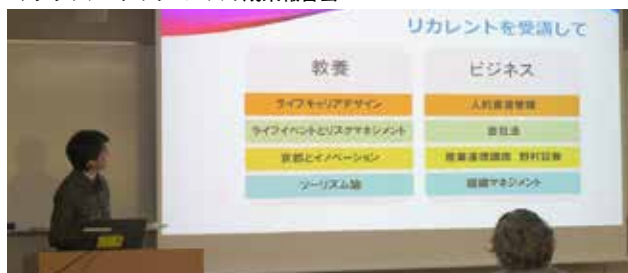
### ●ブラッシュアップコース

ブラッシュアップコースは、幅広くビジネスの基礎知識とリベラルアーツを身に付け、再就職を目指すコースである。令和6年度は7名が受講した。終了後の就職率は100%である。講義は対面とオンライン、オンデマンドで実施した。

また、キャリアカウンセリングの他、修了生との交流会や就職支援セミナーも開催し、アットホームな雰囲気での学びを提供した。受講後のアンケートでは、多様なキャリアを持つ仲間との出会いを本プログラムの大きなメリットとして挙げる意見が多く寄せられた。

2月は、キャリアの決意表明を示す成果報告会が開催され、今後も受講生ネットワークを活かしながら、キャリアを前向きに切り開いていく受講生の姿勢が見られた。

#### ▼ブラッシュアップコースの成果報告会



### ○科目一覧

キャリア形成科目		
区分	科目名	授業形態
必須	ライフキャリアデザイン	対面・Zoom
いずれか1科目選択	パソコン基礎	Zoom
	パソコン実践	Zoom
3科目選択	オフィス英語	オンデマンド
	人的資源管理	オンデマンド
	会社法（起業含む）	Zoom
	企業会計	対面
	マーケティング入門	Zoom
	組織マネジメント	Zoom（会社法履修希望の方のみオンデマンド配信）
	簿記1（3級）	対面
	簿記2（商業簿記アドバンス）	対面
	京都とイノベーション（伝統産業）	対面
	ツーリズム論	対面
	キャリアアップセミナー	オンデマンド
教養科目		
区分	科目名	授業形態
2科目選択	産学連携講座（野村証券）	オンデマンド
	ファッション文化論	対面
	金融論	オンデマンド
	産学連携講座（読売新聞社）	対面
	地域連携講座（ライフイベントとリスクマネジメント）	オンデマンド

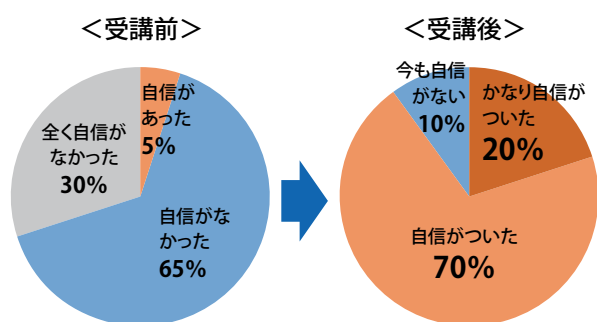
## ●女性のための実践・リーダー育成コース

実践・女性のためのリーダー育成コースは、組織内の管理職ポテンシャル層（管理職含む）を対象としたコースで、対面で実施した。カリキュラムは双方向性の授業を中心とし、受講生同士のディスカッションや交流による相互作用によりリーダーに必要な能力の育成を目指すものである。

令和6年度は20名が受講した。受講生の満足度も高く、特にリーダーシップ力とマネジメント力の向上に高い効果が見られた。

### ○リーダーシップ力<sup>\*</sup>について

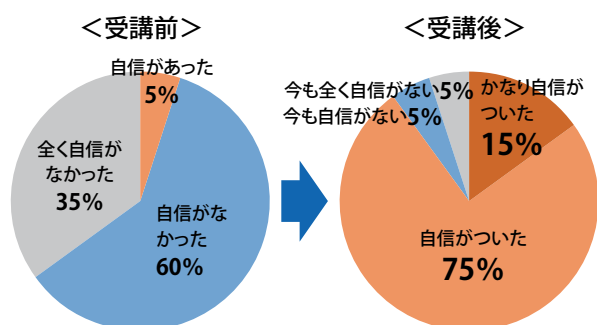
※ここでのリーダーシップ力とは、ある一定の目標達成のために個人やチームに対して行動を促す力のこと。



受講前は、5%の受講生が「自信がある」と回答していたが、受講後は90%（かなり20%、自信がついた70%）に上昇した。

### ○マネジメント力<sup>\*</sup>について

※ここでのマネジメント力とは、ある一定の目標達成のために管理する能力のこと。



受講前は、5%の受講生が「自信があつた」と回答していたが、受講後は90%（かなり15%、自信がついた75%）に上昇した。

さらに、修了後は「積極的にリーダーの立場になっていきたい」75%、「辞令、指示があればリーダーの立場になりたい」15%と、受講生の約90%がリーダーを志向する結果となった。

3月の成果報告会では、各自がキャリアプランの意思表明の発表があり、「管理職に必要な視点や知識が得られ、幅広い視点で物事を判断できるようになった。」「積極的に学んだ事を社会に還元し、組織風土の改善に役立てたい。」等の声があつた。成果報告会参加企業からは、「学びで得た成果を職場で発揮して活躍してほしい。」「意識と行動が前向きに変容して効果を感じた。」等のコメントが寄せられた。

### ▼「英語で茶道」イベントの様子



### ○科目一覧

キャリア形成科目		
区分	科目名	授業形態
ガイダンス（必須）	ジェンダーダイバーシティマネジメント	対面
	ガイダンスと交流会	対面
マネジメントスキル	キャリアマネジメント	対面
	ロジカルライティング	対面
	コーチング	対面
	演習リーダーシップ①	対面
	演習リーダーシップ②	対面
	女性活躍とリーダーシップ	対面
	人的資源管理	オンデマンド
	組織マネジメント	オンデマンド
	ファシリテーター養成	対面
経営スキル	プレゼンテーション	対面
	経営戦略とCGコード	対面
	経営理念と人事施策セミナー	対面
	組織と人のイノベーション	対面
	コーポレートガバナンス（演習）	対面
DXとデータサイエンス	企業会計	対面
	データ分析と活用入門	対面
実践演習	製造業におけるDX	対面
	PBL 問題解決型学習	対面
交流会 リベラルアーツ	ネイティブ講師による英語で茶道セミナー	対面
	資産形成セミナー	対面
卒業発表会	各自から成果報告	対面
修了式	修了イベント	対面 or リモート（ハイブリッド）

# リカレント教育課程

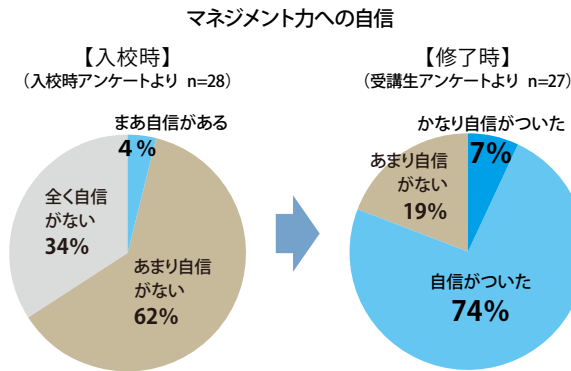
## ●マネジメント入門コース

このコースは、令和6年度文部科学省「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画」における多様なチャレンジに寄り添う学び・社会参画支援モデルを構築するための実証事業として、受託した。

組織で必要とされるマネジメントの基本的な知識とジェンダー平等の視点、キャリアマネジメントへの気づきを得ることで、社会参画のマインドとキャリアに関する自己効力感を高め、マネジメント職やキャリアアップへの挑戦意欲を高めることを主な目的とし開講した。

## ○マネジメント力向上について

マネジメント力の向上を実感する結果がアンケートで得られた。



入校時は4%だった「まあ自信がある」が、修了時には、8割以上が「自信ついた」へと好転した。

## ○評価部会 評価

文部科学省委託事業として、学内委員と京都府委員で構成された評価部会では、各委員から高評価を得て、本プログラムの達成度の平均値「3.8 以上」(4件法)と定めていた指標を達成する結果となった。

	カリキュラム 全体の有益性	受講生同士の ネットワーク 形成の有益性	本プログラムの 達成度
評価委員 A (学外)	3	3	3
評価委員 B (学外)	4	4	4
評価委員 C (学外)	4	3	4
評価委員 D (学内)	4	3	4
評価委員 E (学内)	4	3	4
平均	3.8	3.2	3.8

## ○科目一覧


これまで連携してきた京都女子大学、日本女子大学、福岡女子大学の3女子大学および女性教育機関に加え、2024年度は中部地方の椋山女学園大学、東北地方の宮城学院女子大学が新たに参画し、地域を拡大した連携体制のもとで本プログラムを開講した。

提供機関	領域	科目名	授業形態
合同	その他	入校式・オリエンテーション	オンライン
京都女子大学	キャリアのマネジメント	ライフキャリアデザイン (キャリアについて)	オンライン (オンデマンド)
	「人」のマネジメント	人的資源管理	オンデマンド (オンライン)
	「組織」のマネジメント	組織マネジメント	オンデマンド
	リーダーシップとネットワーク	ロールモデルセミナー第1回: 地域女性リーダー ロールモデルセミナー第2回: 企業女性リーダー	ハイブリッド
日本女子大学	「時間」のマネジメント	タイムマネジメント講座 (東京商工会議所連携講座)	オンライン (Zoom)
福岡女子大学	戦略的思考とリーダーシップ	イノベーション・マネジメントとデザイン思考I	オンライン (Zoom)
		イノベーション・マネジメントとデザイン思考II	オンライン (Zoom)
椋山女学園大学	ファイナンス	ファイナンス入門	オンライン (Zoom)
NTT 西日本	DX 社会への理解	AI リテラシー	オンデマンド
京都女子大学 宮城学院女子大学 女性教育機関	ジェンダー平等と男女共同参画社会	ジェンダーダイバーシティ入門 第1回 京都女子大学 学長提供講座 テーマ: 女性のためのリカレント教育課程の意義	オンライン (Zoom)
		ジェンダーダイバーシティ入門 第2回 国立女性教育会館提供セミナー テーマ: ジェンダーの視点からの持続可能な地域づくり	
		ジェンダーダイバーシティ入門 第3回 宮城学院女子大学提供講座 テーマ: 地域女性とリーダーシップ	
		ジェンダーダイバーシティ入門 第4回 (公財) 市川房枝記念会 女性と政治センター提供セミナー テーマ: 女性と政治参加	
京都女子大学	シンポジウム	京都女子大学リカレントシンポジウム	ハイブリッド
合同	職場見学 (選択)	NTT 西日本 (大阪)・就労支援施設 (東京/福岡)	対面
合同	その他	成果報告会演習	オンライン (Zoom)
		成果報告会・修了式	ハイブリッド



## ○運営スケジュールとポイント

5月	7月～8月	9月
講座企画	募集活動	講座企画
<b>連携機関と協働</b> 女性のためのリカレント教育に実績のある5大学が協働したプログラムを構築。 (京都女子大学、日本女子大学、福岡女子大学、相山女学院園大学、宮城学院女子大学) + 連携する団体や企業へプログラム提供を依頼。 <女性教育関連団体> ・(公財)市川房枝記念会女性と政治センター ・(独)国立女性教育会館 <企業> ・西日本電信電話(株) ・オムロンエキスパートリンク(株)	<b>広報・希望者への相談会実施</b> <b>ホームページ開設</b> ホームページにてプログラム内容を詳細に公開し、応募につなげた。 <b>リーフレットの作成</b> リカレントをPRするリーフレットを制作。連携先企業中心に配布し、ホームページへの誘導をはかった。その他、卒業生DM、育友会メールマガジンなど活用。 <b>本学客員教授 池上彰氏を起用した説明会実施</b> 説明会では、修了生とのパネルディスカッションを実施。リカレント受講後の変化やリカレントの魅力を伝えた。 <b>個別相談会(リモート)の実施</b> ホームページへ個別相談受付フォームを設置。個別の相談に一つ一つに対応した。 <b>京都女子大学及び滋賀会場で対面説明会を実施</b> リモートに加えて、会場で対面での説明会も実施した。	<b>選考</b> <b>面接の実施</b> 学ぶ意欲、受講目的と講座の合致などを基準に、応募者全員に面接(リモート)を実施。選考基準を定め、公平な選考につとめた。 <b>開講前コミュニケーション</b> <b>ホームページに受講生特設ページを設置</b> 気軽に質問できるフォームを鍵付きで設け、コーディネーターが対応。受講生の受講前の疑問へ応えた。 <b>オリエンテーション実施</b> 動画を制作し、学習システムやスケジュール、学習を進めるにあたっての注意点などについて、受講前に受講生専用ページで公開した。 オンライン中心の学習となるため、受講前から使い方への疑問点や不安の解消につとめた。
大学・団体・企業との連携	リカレントの詳細を告知 受講希望者へフォローアップ	受講前フォロー

10月～2月	2月～3月
開講期間	講座終了後
<b>オンライン講座での工夫</b> <b>リアルタイムオンライン授業(Zoom)</b> グループディスカッション(ブレイクアウトルーム)ワークなどを取り入れた座学だけでなく授業で、講師・受講生同士のコミュニケーションを重視。 <b>ハイブリッド形式での授業実施</b> 授業の6回を対面・リモートどちらでも受講できるハイブリッド授業とした。講師と直接話せる対面授業を望む受講生は多く、関西在住の受講生中心に、大学で授業を受けた。教室をwebカメラで繋ぎ、ライブ感を持たせた。 <b>授業後のアンケート実施</b> 出席確認と共に、授業後には理解度を計るためのアンケートを実施して、講師と共有した。結果を受講生への迅速なフォローに役立てた。	<b>ハイブリッド形式で成果報告会を実施</b> <b>「私にとってのマネジメントとは？」をテーマに開催</b> 学びを振り返り、今後、学びをどう活かしていくかをパワーポイントにまとめ、一人ずつプレゼンテーションを行った。成果報告会での発表が自信を持ってできるようコーディネーターとティーチングアシスタントで、オリエンテーションや個別相談を実施。27名中25名が大学で参加する盛会となった。 
<b>フォローアップ</b> <b>専従のコーディネーターが常駐</b> キャリアコンサルタント有資格者で経験豊かなコーディネーターが受講生対応にあたり、孤独になりやすいオンライン学習での不安を取り除けるように、はかった。 <b>授業後のフォロー</b> 各リモート講座後、質問時間を設けて、コーディネーターとティーチングアシスタントが対応した。(メールでの質問にも随時対応) <b>キャリアカウンセリング</b> 今までのキャリアの振り返りや今後のキャリアビジョンを明確にすることを目的に、外部のキャリアコンサルタントによる面談(2回)を希望者に実施した。	<b>今後のネットワーク構築を支援</b> コーディネーターの呼びかけで懇親会を開催。(対面1回、リモート2回)懇親会で、2020年度修了生が自主運営してきた分科会へ関心を寄せ、今後、同様の繋がりを求める受講生が多くみられた。 修了生分科会メンバーへ伝え、3月8日(土)13時半～15時半修了生代表との交流会(ハイブリッド)が実現した。 これまでの分科会についての説明を受け、今後は、共同で京都女子大学リカレント教育課程修了生分科会として、希望者はメンバーとなり、ネットワークを形成し、互いの学びを継続していくこととなった。
受講生同士のコミュニケーション促進・ 受講生へのきめ細かなフォロー	修了後のネットワーク構築

# 2024年度 主な活動実績

6/8	リカレント教育課程説明会 池上彰が語る「リカレント教育と女性リーダー育成」講演+録画配信	11/1	「職場見学～マネジメント入門」Kaizen (横浜)・NTT 西日本 (大阪)・ComeLuck (福岡 11月2日)
6/10 ～ 8/2	リカレント個別相談会受付開始 (ZOOM)	11/5	ダッソーシステムズ特別講演
6/10	リカレント教育課程出願開始	11/9 ～ 2/8	京都府リカレント連携事業「データサイエンティスト育成コース (後期)」
6/20	KNF ウィミズカレッジマネジメント入門コース採択	11/16	文科省から授業視察・受講生の意見交換会
6/10 ～ 8/26	出願期間 (ブラッシュアップコース・女性リーダー)	11/21	上智大学 リカレントについての取材 (インタビュー)
7/1 ～ 8/26	出願期間 (マネジメント入門コース)	11/22	文科省第一回有識者会議
7/3	リカレントキャンパスツアー	12/7	池上彰氏リカレントシンポジウム「リカレントで拓く未来」(ハイブリッド)
7/13	リカレント個別相談会 (対面: 滋賀大学大津サテライトプラザ)	12/7	リカレント受講生・修了生交流会 (全コース共通)
7/13	第1回防災連続セミナー (全2回) オンデマンド (7/13～8/3 迄視聴可能)	12/7	英語で茶道「リーダーに求められるリベラルアーツとしての茶道」
7/17	リカレントキャンパスツアー	12/16	リカレント修了生交流会 (ブラッシュアップコース)
7/19	リビング掲載 (豊中・吹田・箕面・東京・むさしの・多摩)	12/21	Waffle college イベント Web サイト制作体験
7/20	土曜版日本経済新聞へ女性リーダーコース案内掲載	12/25	理系女子 (リケジョ) のロールモデルセミナー
7/20	第2回防災連続セミナー (全2回) 対面	1/21	Waffle college イベント Web サイト制作体験
7/27	リビング掲載 (京都・福岡)	1/22	京都銀行金融教育セミナー
7/29 ～ 9/9	京都府リカレント連携事業「データサイエンティスト育成コース (全6回)」	1/22	第2回文科省リカレントプログラム企画委員会
7/31	リカレントキャンパスツアー	2/1	成果報告会へ向けてのオリエンテーション (マネジメント入門コース)
8/9	リビング掲載 (名古屋中央・北・南・東山の手)	2/3	ワークアカデミー「就職説明会」
8/29	京都済生会病院連携協定締結記念講演会	2/10	成果報告会リハーサル (ブラッシュアップコース)
9/6・7・9	リカレント選考面接 (全コース共通)	2/8	成果報告会へ向けての個別相談会 (マネジメント入門コース)
9/19	第1回文科省リカレントプログラム企画委員会	2/15	成果報告会・修了式 (ブラッシュアップコース)
9/20	リカレント合格通知発送	2/21	京女ラウンドテーブル
9/24	リカレントオリエンテーション (オンデマンド配信開始)	2/21	連携プロジェクト成果報告会
9/27	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜講演会 (女性のためのリカレント)	2/22	成果報告会・修了式 (マネジメント入門コース)
9/30	リカレント入校式・授業開始 (ブラッシュアップコース)	2/27	第二回文科省有識者会議
10/12	リカレント入校式・授業開始 (女性リーダー・マネジメント入門コース)	2/28	女性のためのリカレント教育推進協議会ワークショップ
10/24	ANA ビジネスソリューション協定締結式	3/1	リモート意見交換会 (マネジメント入門コース)
10/24	アカデミアフォーラムイベント「京都アカデミアウィーク in 丸の内」	3/1	成果報告会 (女性リーダーコース)
		3/5	第3回文科省リカレントプログラム企画委員会
		3/22	修了式女性 (リーダーコース)
		3/22	京都新聞リカレントについての取材

# 協定締結先と連携協定内容一覧

(協定締結日順)

協定締結先	協定締結日	連携協定書内容
京都信用金庫	2004/10/18	産学連携活動
東山区役所	2008/2/26	まちづくりの推進に関すること、教育、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承と振興、地域産業の振興
近畿中国森林管理局	2008/9/16	「遊々の森」における体験活動
京都大学	2010/6/1	特別研究学生交流
東山区社会福祉協議会	2010/10/4	地域福祉活動、地域福祉推進
京都市中央卸売市場第一市場	2013/11/5	健康増進・食育にかかる情報発信、市場活性化・市場流通品の促進、地域活性化
京都府警察本部	2014/11/7	交通安全の課題と対策、交通安全活動、道路交通環境の改善、通学路の交通安全
阪急電鉄株式会社	2015/3/26	教育、人材の育成、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承、地域産業の振興
鳥取県、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構	2015/6/29	就職支援、産学官連携、世代間交流、生涯学習
招徳酒造株式会社	2015/9/18	地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化
齊藤酒造株式会社	2015/9/18	地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化
株式会社朝日新聞社	2016/1/20	新聞産業・文化の継承と振興、メディア教育、人材の育成
野村證券株式会社	2016/2/1	金融教育、人材の育成
株式会社三井住友銀行	2016/7/8	金融教育、人材の育成、地域活性化
京都刑務所	2016/7/27	教育、人材の育成
奈良女子大学	2016/9/23	女性人材、学生及び大学院生の交流、単位互換
京都市立東山総合支援学校	2016/10/13	教育、人材の育成
株式会社京都銀行	2016/12/8	金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化
京都励学国際学院	2016/12/14	日本語教育課程、留学生教育、協定校の拡充
NPO 法人京都景観フォーラム	2017/1/17	地域景観教育、人材の育成
ムーンバット株式会社	2017/2/6	デザイン教育、人材の育成
ハイアットリージェンシー京都	2017/2/15	寄附講義、ホスピタリティ、人材の育成
大阪ガス株式会社	2017/2/17	寄附講義、人材の育成
京都アメリカ大学コンソーシアム	2017/4/21	語学教育、人材の育成
5× Ruby Inc.	2017/5/15	情報教育、人材の育成、インターンシップ
武庫川女子大学	2017/7/11	SD の実施
奈良先端科学技術大学院大学	2017/7/24	理系人材、学生及び大学院生の交流、単位互換
オムロンパーソネル株式会社	2018/3/2	リカレント教育、人材の育成
京都府立医科大学	2018/3/26	教育・研究、学生の交流、教職員・研究者交流
大妻女子大学	2018/4/10	学生及び大学院生の交流、単位互換、教職員及び研究者の交流
鹿児島国際大学	2018/7/23	学生・大学院生の教育・相互交流、学術研究、教職員の相互交流、地域貢献
東山警察署	2018/7/24	事故・事件の防止活動と対策、教育・研究支援
岐阜県白川村	2019/4/1	地域の活性化及び産業の振興、教育、伝統文化の継承と振興、人材の育成
共立女子大学・共立女子短期大学	2019/5/1	学生の教育・学術研究、教職員の相互交流、地域貢献
滋賀県多賀町	2019/6/12	地域産業の振興、地域活性化、人材の育成
オムロンエキスパートリンク株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
株式会社ワークアカデミー	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
西日本電信電話株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
京都市東山区保育園協議会	2020/6/16	教職員、学生、リカレント受講生の子どもの保育・保育活動



協定締結先	協定締結日	連携協定書内容
滋賀大学	2020/11/6	学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、文化・芸術の向上
京都中小企業家同友会	2020/12/12	中小企業の理解、地域企業の発展、人材の育成、産学連携や地域活性化
京都中央信用金庫	2021/1/27	金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化
公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会	2021/3/9	地域伝統文化の継承と振興、地域活性化、教育活動、人材の育成
京都弁護士会	2021/5/27	実務法曹の能力の向上、学術研究及び教育の推進
日新電機株式会社	2021/7/1	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
株式会社半兵衛麴	2021/7/8	食文化の継承と振興、地域産業の振興
株式会社 SCREEN ホールディングス	2021/8/18	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
社会福祉法人京都府社会福祉事業団	2021/10/1	教育・研究、リカレント分野の事業活動等
日本赤十字社京都府支部	2021/11/24	防災教育・研究
京都市	2022/3/28	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
オムロンヘルスケア株式会社	2022/3/28	データサイエンス教育・研究、人材の育成、健康教育等
株式会社エヌ・ビー・エル	2022/5/1	学生の教育・研究、学術研究、地域活性化、人材の育成等
京都薬科大学	2022/6/16	学生の教育・研究、データサイエンス教育・研究、リカレント教育等
株式会社 ID ホールディングス	2022/10/18	データサイエンス教育・研究、人材の育成
一般社団法人近畿健康管理センター	2022/10/25	健康・栄養の教育、健診及び関連業務における人材の育成等
西日本旅客鉄道株式会社	2022/10/25	データサイエンス教育・研究、人材の育成、地域の課題解決等
京都府	2022/11/16	データサイエンス教育・研究、人材の育成、リカレント教育、地域活性化等
公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター	2022/11/30	女性の政治的エンパワメントに向けた人材の育成、女性の政治に関する調査・研究等
NEC ネットエスアイ株式会社	2022/12/13	データサイエンス教育・研究、人材の育成
実践女子大学	2022/12/21	学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、国際交流、人材の育成等
藤田興産株式会社（長岡スイミングスクール）	2023/4/1	住民の健康増進及び地域活性化に関すること、人材の育成、健康・栄養の教育及び研究に関すること等
株式会社リンクレア	2023/4/1	データサイエンス教育・研究に関すること、人材の育成に関すること、地域の課題解決に関すること、その他両者が協議して必要と認める事項
一般社団法人 El Sistema Connect	2023/8/2	学生の教育・研究、学術研究、人材の育成等
社会福祉法人恩賜財団 京都済生会病院	2023/8/8	データサイエンス教育・研究、データ知識をもつ医療人材の育成、インターンシップ、リカレント教育促進等
ダッソー・システムズ株式会社	2023/9/5	データサイエンス教育・研究、スマートシティの推進や地域活性化、人材の育成等
ダイハツ工業株式会社	2023/10/2	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
株式会社ナイトレイ	2023/10/2	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
名古屋製酪株式会社	2023/10/2	健康・栄養の教育・研究、商品開発及び関連業務における人材の育成等
エイターヘルスケア株式会社	2023/10/2	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
株式会社インテージホールディングス	2023/11/22	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
西宮市	2023/12/21	データ活用の充実、データサイエンス教育・研究、リカレント教育の推進、人材の育成等
久御山町	2024/3/27	地域の活性化、福祉及び農業を含む産業の振興、教育、食育、伝統文化・食文化の継承と振興、人材の育成等
株式会社読売新聞大阪本社	2024/4/1	産学連携講座の実施
日立造船株式会社	2024/4/23	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
株式会社トーフミート	2024/5/14	健康・栄養の教育・研究、商品開発及び関連業務における人材の育成等
医療法人社団慶友会 吉田病院	2024/8/5	学生の教育・研究、学術研究、地域活性化、人材の育成等
ANA ビジネスソリューション(株)	2024/10/24	学生の教育・研究に関すること、学術研究に関すること、人材育成に関すること
独立行政法人 都市再生機構	2025/3/26	主体的に社会とかがわることができる人材の育成及び教育活動に関すること、産学連携や地域の活性化に資する取り組みに関すること

# 京都女子大学地域・産学官連携ポリシー

## (平成29年2月9日制定)

京都女子大学は、創立以来、女性教育のパイオニアとして多様な分野で活躍する女性を輩出してきました。

本学では、親鸞聖人の体した仏教に基づく教育を行うことを建学の精神としています。その目的は、人間教育にあります。仏教を通して自己を見つめ自己中心的な姿を明らかにします。互いが自己中心的存在であることを認め信頼関係を構築していきます。現実の諸問題に対しても、問題の本質を捉え、積極的に取り組む人間形成を目指した教育を実践しています。

この建学の精神に則り、京都女子大学は、地域社会、国と地方公共団体、産業界、そして国際社会の発展に寄与する地域・産学官連携を教育と研究に並ぶ大学の使命の一つとして位置付け、この使命を実現するための基本方針として、以下の通り「地域連携ポリシー」および「産学官連携ポリシー」を定めます。

### 《地域連携ポリシー》

1. 本学の建学の精神に鑑み、地域社会との持続的な連携を行い、地域社会の活性化のために貢献します。  
(社会貢献)
2. 地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、地域社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(教育研究促進・人材育成)
3. 地域連携により得られた知の成果を広く社会に還元し、地域社会と地域課題の共有に努めます。  
(地域課題の共有)
4. 地域連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
5. 地域連携活動を大学の自己評価に反映させます。  
(自己評価)
6. 本学の地域連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

### 《産学官連携ポリシー》

1. 公的機関・企業等との共同研究・受託研究等を積極的に推進し、社会・経済の発展に寄与するとともに、本学の教育研究活動の基盤向上を図ります。  
(共同研究)
2. 産学官連携活動から得られる成果を本学の教育・研究の促進に役立てます。(教育研究促進)
3. 産学官連携活動を通じて、社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(人材育成)
4. 本学と公的機関・企業等との組織間の明確な契約による連携を基本とし、産学官連携により得られた知的財産を適切に保護・管理し、有効活用していきます。(知財管理・活用)
5. 透明性の高い産学官連携活動を行い、説明責任を果たします。(説明責任)
6. 産学官連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
7. 産学官連携活動を大学の自己評価に反映させます。  
(自己評価)
8. 本学の産学官連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

以 上







---

編集・発行

---

京都女子大学 地域連携研究センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35

TEL. 075(531)9057 FAX. 075(531)7323

E-mail: [renkei@kyoto-wu.ac.jp](mailto:renkei@kyoto-wu.ac.jp)

URL: <https://rccp.kyoto-wu.ac.jp>